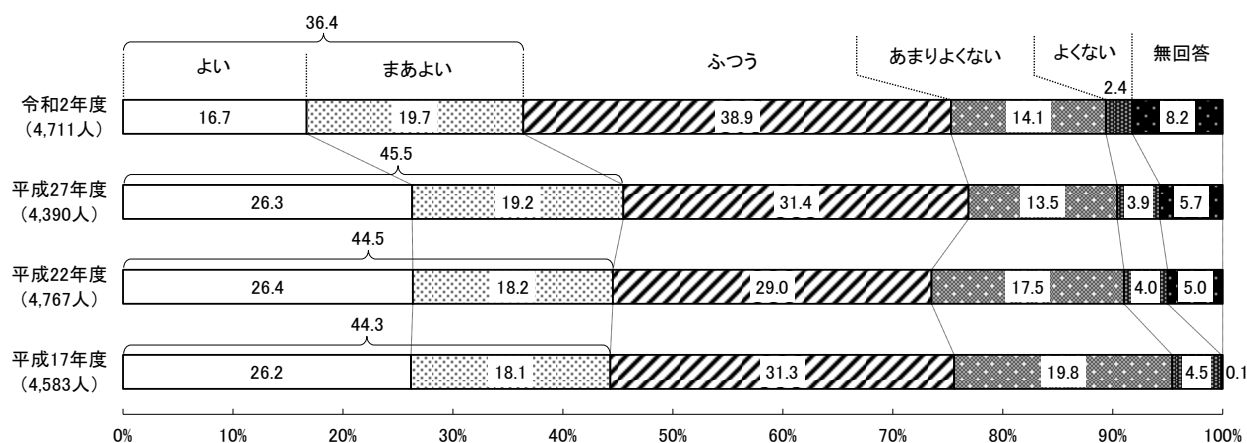


### 第3章 健康

#### 1 健康状態

健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が38.9%で最も高く、次いで「まあよい」が19.7%となっている。また、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は36.4%となっている。(図3-1)

図3-1 健康状態—過去調査との比較

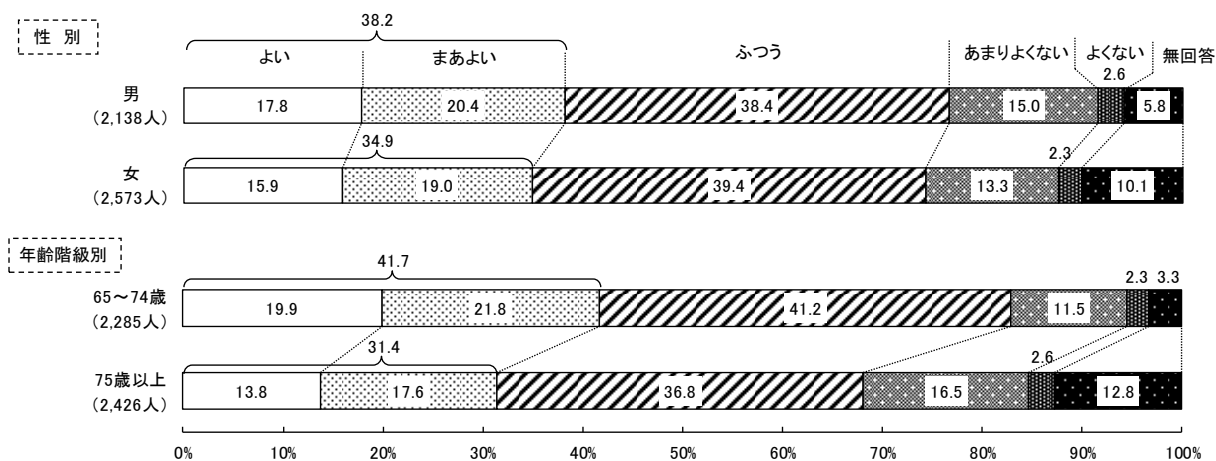


(1) 健康状態—性、年齢階級別

健康状態を性別で見ると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、男性 38.2%に対して、女性 34.9%で、男性の方が高くなっている。

年齢階級別にみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、前期高齢者（65～74歳）は 41.7%であるが、後期高齢者（75歳以上）は 31.4%で、前期高齢者に比べて 10.3ポイント低くなっている。（図 3-2）

図 3-2 健康状態—性、年齢階級別

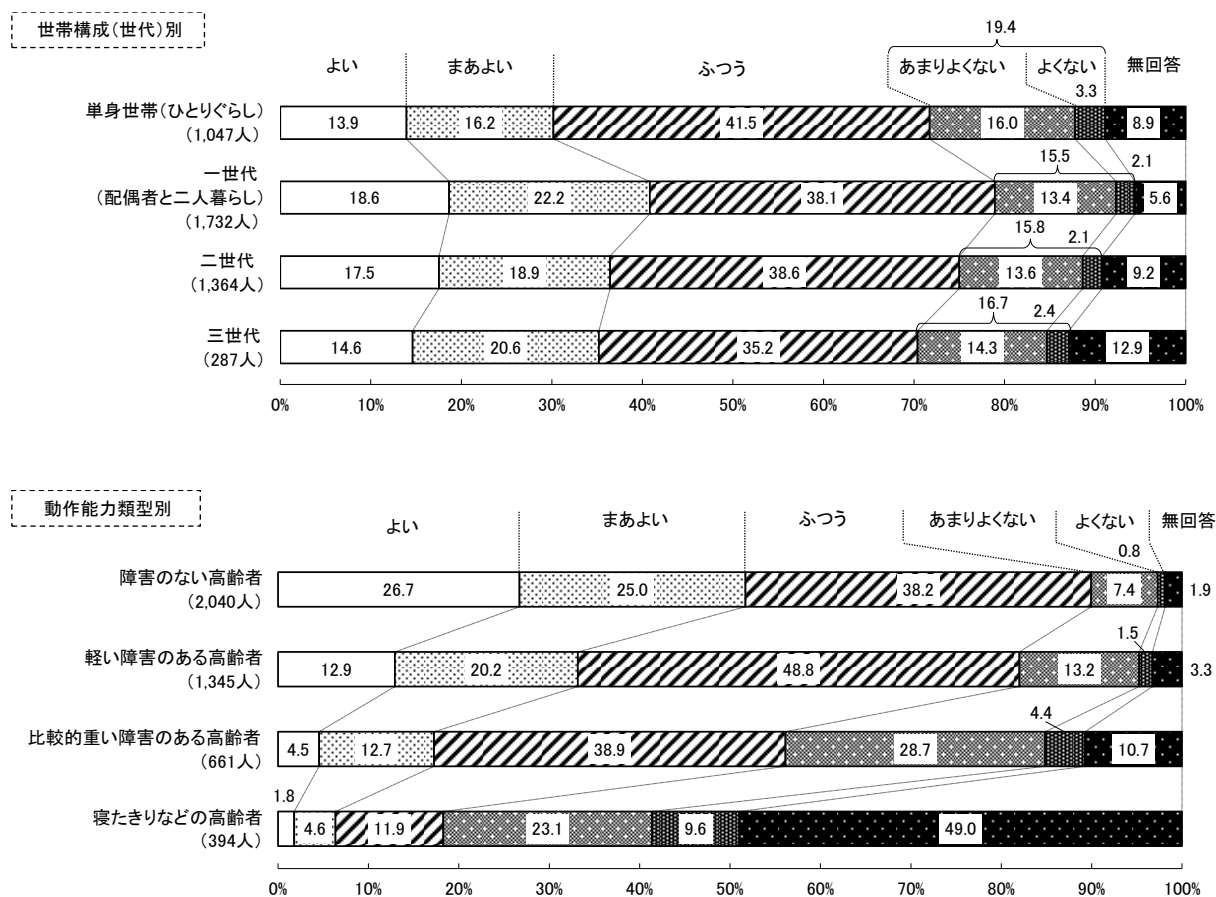


## (2) 健康状態—世帯構成（世代）、動作能力類型別

「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が約2割

世帯構成（世代）別にみると、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が19.4%と他の世帯構成に比べて高くなっている。（図3-3）

図3-3 健康状態—世帯構成（世代）、動作能力類型別



(注) 動作能力類型は、50頁を参照。

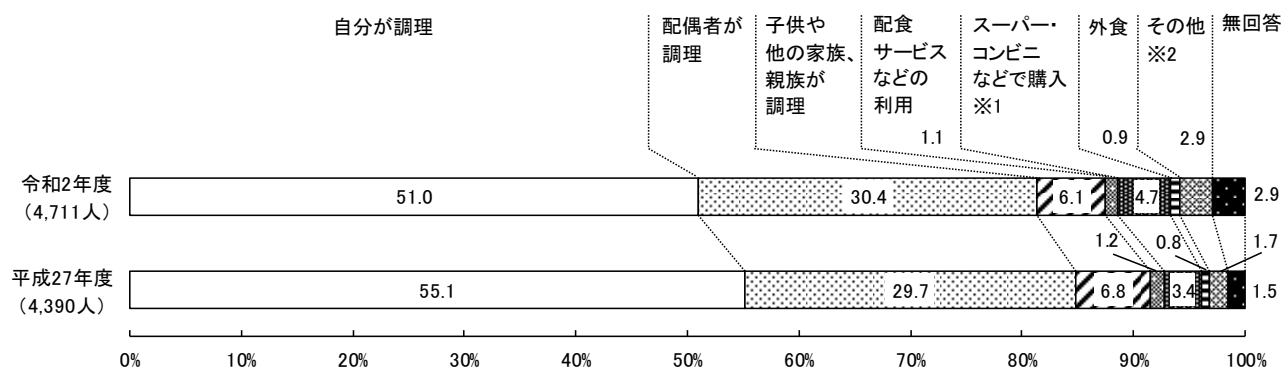
## 2 食事の状況

普段の食事の用意は、「自分が調理」の割合が最も高く、約5割

普段の食事の状況について聞いたところ、食事の用意は「自分が調理」の割合が51.0%で最も高く、次いで「配偶者が調理」が30.4%となっている。

平成27年度調査と比べて、「自分が調理」の割合は4.1ポイント減少している。(図3-4)

図3-4 食事の状況—平成27年度調査との比較



(注1) ※1は、平成27年度調査では「スーパー・コンビニなどで惣菜、インスタント食品などを購入」としていた。

(注2) ※2は、平成27年度調査では「その他(ヘルパーが調理・デイサービスを利用・出前など)」としていた。

(1) 食事の状況－性・年齢階級、配偶者の有無別

男性では「配偶者が調理」の割合が最も高く 63.8%、女性では「自分が調理」が最も高く、78.0%

普段の食事の状況を性別で見ると、男性では「配偶者が調理」の割合が 63.8%で最も高くなっている。一方、女性では「自分が調理」の割合が 78.0%で最も高くなっている。

性・年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「子供や他の家族、親族が調理」の割合が高くなり、85歳以上では男性 12.8%、女性 28.5%となっている。

配偶者の有無別にみると、配偶者のいる男性は「配偶者が調理」の割合が 82.4%となっている。一方、配偶者のいる女性は「自分が調理」の割合が 85.7%となっている。(表 3-1)

表 3-1 食事の状況－性・年齢階級、配偶者の有無別

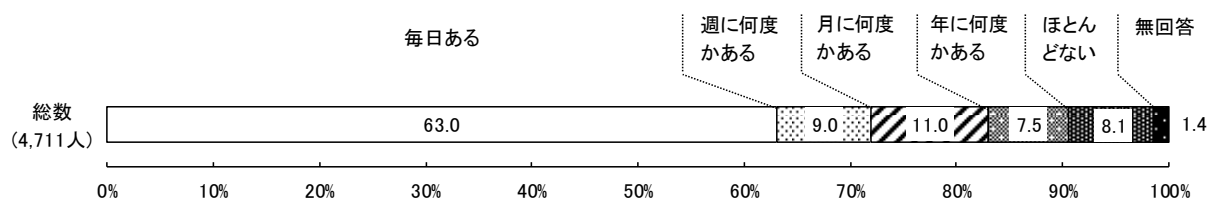
		総数	自分が調理	配偶者が調理	子供や他の家族、親族が調理	配食サービスなどの利用	でスーパー・コンビニなど	外食	その他	無回答
総数		100.0 (4,711)	51.0	30.4	6.1	1.1	4.7	0.9	2.9	2.9
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	18.5	<u>63.8</u>	3.8	1.1	6.3	1.7	2.0	2.7
	65～74歳	100.0 (1,114)	19.7	62.0	2.2	0.3	9.1	2.5	1.4	2.8
	75～84歳	100.0 (767)	17.7	70.0	3.3	0.8	3.3	0.8	2.0	2.2
	85歳以上	100.0 (257)	15.2	53.3	<u>12.8</u>	5.8	3.5	1.2	4.3	3.9
	女	100.0 (2,573)	<u>78.0</u>	2.7	8.0	1.1	3.3	0.2	3.7	3.0
	65～74歳	100.0 (1,171)	88.9	1.8	2.4	0.2	2.4	0.2	1.7	2.5
	75～84歳	100.0 (1,013)	78.9	3.8	6.6	0.7	3.8	0.2	3.3	2.7
	85歳以上	100.0 (389)	43.2	2.3	<u>28.5</u>	4.9	4.6	-	11.1	5.4
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,995)	42.8	47.9	2.3	0.8	1.7	0.3	1.8	2.4
	男	100.0 (1,657)	8.2	<u>82.4</u>	2.5	0.8	1.7	0.5	1.5	2.4
	女	100.0 (1,338)	<u>85.7</u>	5.2	2.2	0.7	1.8	-	2.2	2.3
	配偶者なし	100.0 (1,686)	65.2	-	12.9	1.7	9.8	1.8	4.9	3.7
	未婚	100.0 (371)	64.7	-	6.5	0.5	17.8	3.0	3.0	4.6
	死別	100.0 (989)	63.7	-	17.5	2.3	5.8	0.8	5.9	4.0
	離別	100.0 (326)	70.6	-	6.1	0.9	12.9	3.7	4.3	1.5

### 3 誰かと共に食事をとる頻度

誰かと共に食事をする機会は、「毎日ある」割合が最も高く、63.0%

誰かと一緒に食事をする機会がどれくらいあるか聞いたところ、「毎日ある」割合が63.0%で最も高く、次いで「月に何度かある」が11.0%となっている。(図3-5)

図3-5 誰かと共に食事をとる頻度



(1) 誰かと共に食事をする頻度－性・年齢階級、世帯類型別

誰かと共に食事をする機会がひとりぐらしでは「月に何度かある」が最も高く、29.2%

誰かと共に食事をする頻度を性別で見ると、男女とも「毎日ある」割合が最も高く、男性 64.9%、女性 61.5%となっている。

性・年齢階級別にみると、男性では年齢階級が上がるにつれて、「毎日ある」割合が高くなり、女性では年齢階級が上がるにつれて、「毎日ある」割合が低くなっている。(男性 62.4%～66.4%、女性 72.2%～55.3%)

世帯類型別にみると、ひとりぐらしは「月に何度かある」割合が 29.2%で最も高く、次いで「ほとんどない」が 23.4%となっている。(表 3-2)

表 3-2 誰かと共に食事をする頻度－性・年齢階級、世帯類型別

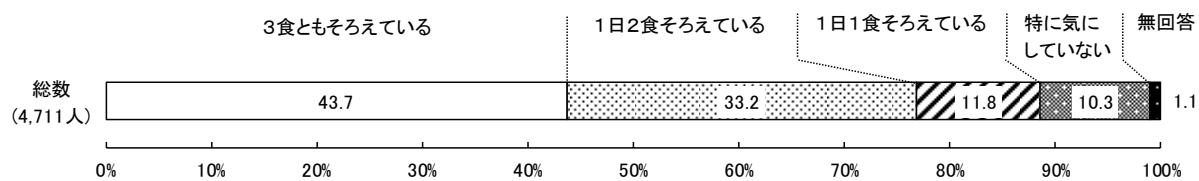
		総数	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
総数		100.0 (4,711)	63.0	9.0	11.0	7.5	8.1	1.4
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	<u>64.9</u>	6.7	8.7	7.8	10.6	1.4
	65～69歳	100.0 (492)	<u>62.4</u>	8.9	9.8	5.5	12.4	1.0
	70～74歳	100.0 (622)	<u>64.3</u>	8.2	8.2	7.1	10.9	1.3
	75歳以上	100.0 (1,024)	<u>66.4</u>	4.7	8.4	9.3	9.5	1.8
	女	100.0 (2,573)	<u>61.5</u>	10.8	12.9	7.3	6.0	1.4
	65～69歳	100.0 (489)	<u>72.2</u>	9.8	8.6	3.9	4.1	1.4
	70～74歳	100.0 (682)	<u>66.6</u>	11.1	9.8	6.9	4.7	0.9
75歳以上	100.0 (1,402)	<u>55.3</u>	11.1	15.9	8.8	7.3	1.6	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	53.6	9.9	14.3	10.2	11.2	0.8
	ひとりぐらし	100.0 (1,047)	9.4	17.7	<u>29.2</u>	18.8	<u>23.4</u>	1.5
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	82.4	4.8	4.7	4.9	3.0	0.3
	その他	100.0 (157)	77.1	6.4	5.1	2.5	7.6	1.3
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	77.7	7.9	6.4	4.2	3.4	0.4

#### 4 食事のバランス

ふだんの食事で主食・主菜・副菜を「3食ともそろえている」割合が最も高く、43.7%

普段の食事で主食（ご飯、パン、麺類など）、主菜（肉、魚、卵、豆腐などの大豆製品を使ったおかず）、副菜（野菜を使ったおかず）をそろえた食事をしているか聞いたところ、「3食ともそろえている」割合が43.7%で最も高く、次いで「1日2食そろえている」割合が33.2%となっている。（図3-6）

図3-6 食事のバランス





(1) 食事のバランス－性・年齢階級、世帯類型別

主食・主菜・副菜を「3食ともそろえている」割合は、男女とも年齢階級が上がるとともに増加

食事のバランスを性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「3食ともそろえている」割合が高くなり、75歳以上では男性54.1%、女性46.9%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしは「3食ともそろえている」割合が29.9%で、総数の割合（43.7%）と比べて13.8ポイント低い割合になっている。（表3-3）

表 3-3 食事のバランス－性・年齢階級、世帯類型別

		総数	3食ともそろえている	1日2食そろえている	1日1食そろえている	特に気にしていない	無回答
総数		100.0 (4,711)	<u>43.7</u>	33.2	11.8	10.3	1.1
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	44.3	29.6	12.2	12.7	1.1
	65～69歳	100.0 (492)	28.5	34.8	18.3	17.5	1.0
	70～74歳	100.0 (622)	40.8	32.8	13.8	11.7	0.8
	75歳以上	100.0 (1,024)	<u>54.1</u>	25.2	8.3	11.0	1.4
	女	100.0 (2,573)	43.2	36.1	11.4	8.3	1.0
	65～69歳	100.0 (489)	33.3	42.5	14.5	8.2	1.4
	70～74歳	100.0 (682)	42.7	38.0	13.2	5.9	0.3
75歳以上	100.0 (1,402)	<u>46.9</u>	33.0	9.4	9.6	1.2	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	43.6	33.3	10.8	11.7	0.5
	ひとりぐらし	100.0 (1,047)	<u>29.9</u>	33.9	14.8	20.5	0.9
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	53.1	33.2	8.0	5.4	0.3
	その他	100.0 (157)	45.9	29.3	11.5	12.7	0.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	43.4	34.5	13.7	8.3	0.1

## 5 日常生活動作（ADL）

日常生活動作(ADL)を、「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排せつ」の基本項目と、「家事一般」「金銭の管理」「薬の管理」「電話の利用」の項目、さらに行動範囲を中心とした「総合」に分けて聞いた。

### (1) 日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）

日常生活動作（聴力、視力、意思伝達）の項目において、「日常生活に多少支障がある」と「日常生活に支障がある」を合わせた割合は、「聴力」16.2%、「視力」13.9%、「意思伝達」8.8%となっている。（図3-7）

日常生活動作（ADL）（歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）のいずれの項目においても、8割以上の方が「ひとりで全部できる」と回答している。（図3-8）

図3-7 日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達）

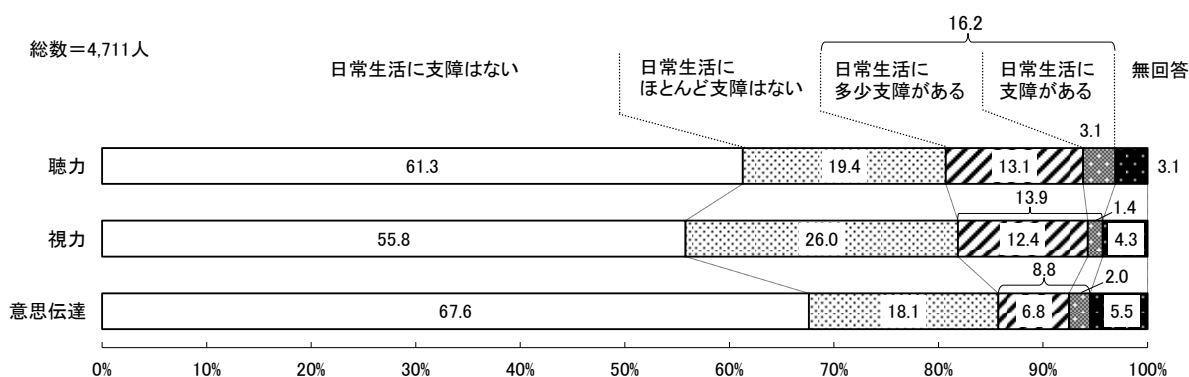
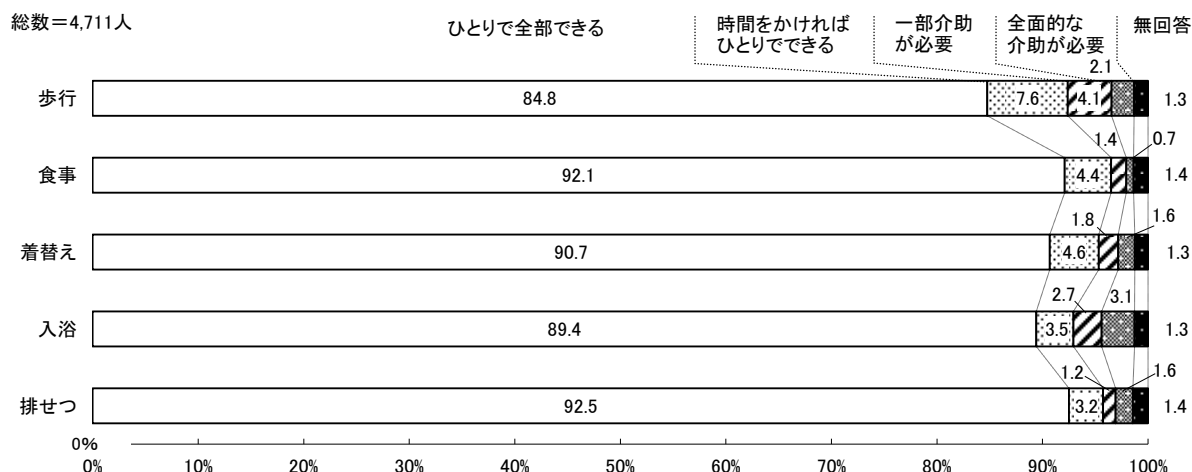


図3-8 日常生活動作（ADL）（歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）



8 項目の回答状況を、段階A・Bに分けて表示したのが表 3-4 である。

表 3-4 日常生活動作 (ADL)

(注) A・B 欄は「動作能力類型」(P50 参照) を作成するための分類である。

(単位: %)

	A		B	
聴力 ※1	1 日常生活に支障はない	61.3	4 日常生活に支障がある	3.1
	2 日常生活にほとんど支障はない	19.4		
	3 日常生活に多少支障がある	13.1		
視力 ※2	1 日常生活に支障はない	55.8	3 日常生活に多少支障がある	12.4
	2 日常生活にほとんど支障はない	26.0	4 日常生活に支障がある	1.4
意思伝達	1 日常生活に支障はない	67.6	3 日常生活に多少支障がある	6.8
	2 日常生活にほとんど支障はない	18.1	4 日常生活に支障がある	2.0
歩行 ※3	1 ひとりで全部できる	84.8	3 一部介助が必要	4.1
	2 時間をかければひとりでできる	7.6	4 全面的な介助が必要	2.1
食事	1 ひとりで全部できる	92.1	3 一部介助が必要	1.4
	2 時間をかければひとりでできる	4.4	4 全面的な介助が必要	0.7
着替え	1 ひとりで全部できる	90.7	3 一部介助が必要	1.8
	2 時間をかければひとりでできる	4.6	4 全面的な介助が必要	1.6
入浴	1 ひとりで全部できる	89.4	3 一部介助が必要	2.7
	2 時間をかければひとりでできる	3.5	4 全面的な介助が必要	3.1
排せつ	1 ひとりで全部できる	92.5	3 一部介助が必要	1.2
	2 時間をかければひとりでできる	3.2	4 全面的な介助が必要	1.6

(注1) ※1 は普段、補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

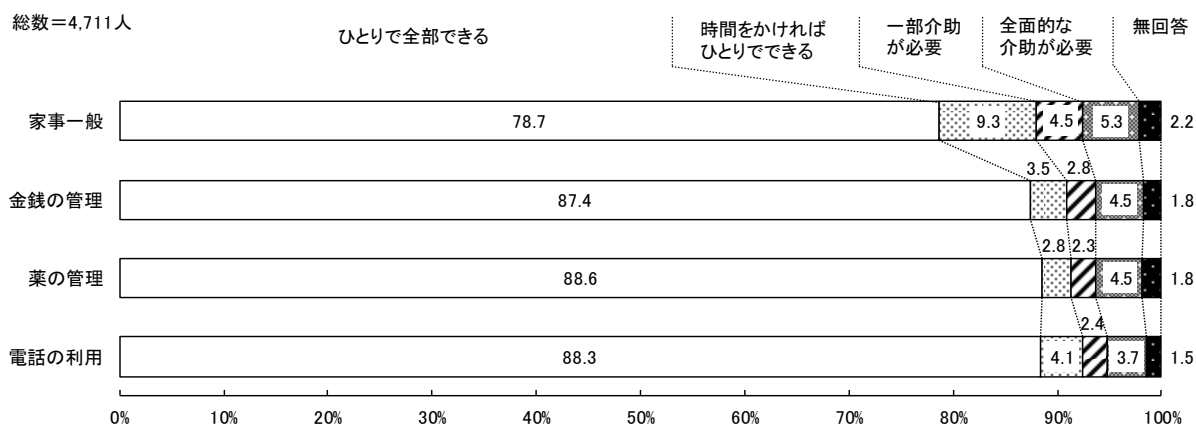
(注2) ※2 は普段、眼鏡を使用している場合は、眼鏡を使用した状態で回答している。

(注3) ※3 は普段、杖や車椅子などを使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

(2) 日常生活動作 (ADL) (家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用)

日常生活動作 (家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用) の項目において、「ひとりで全部できる」割合は、「家事一般」78.7%、「金銭の管理」87.4%、「薬の管理」88.6%、「電話の利用」88.3%となっている。(図 3-9)

図 3-9 日常生活動作 (ADL) (家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用)



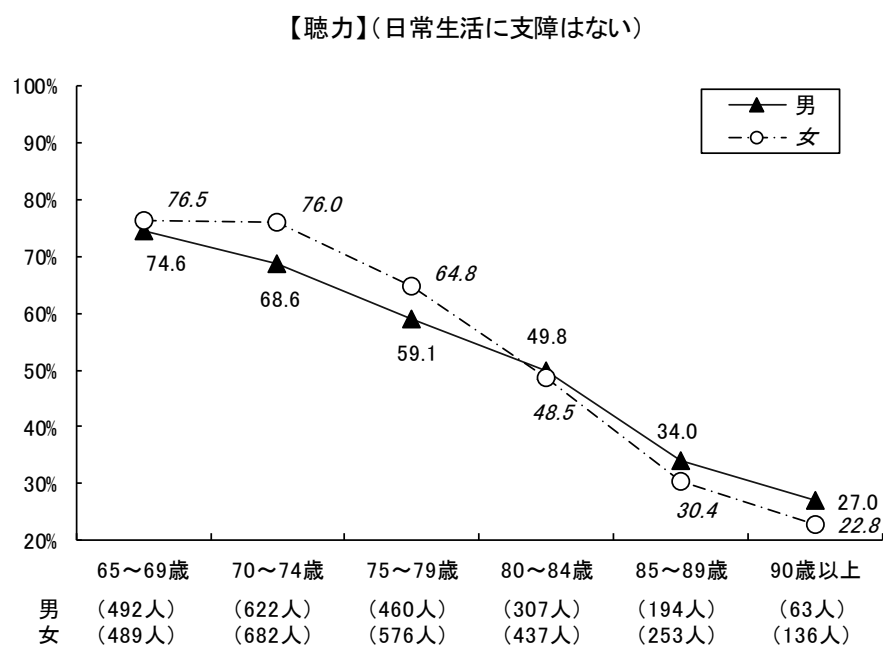
### (3) 日常生活動作 (ADL) - 性・年齢階級別

下記の図 3-10 の各図は、日常生活動作 (ADL) の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した人の割合を性・年齢階級別に示したものである。

年齢が高くなるとともに、「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」の割合は、概ね低くなっている。

性・年齢階級別で見ると、全ての項目において、「65～69 歳」では男女に差異はあまりみられないが、「着替え」、「入浴」、「金銭の管理」の項目において、「85～89 歳」、「90 歳以上」では、女性の方が男性より 10 ポイント以上低い割合になっている。(図 3-10)

図 3-10 ADL に問題のない高齢者の割合 - 性・年齢階級別

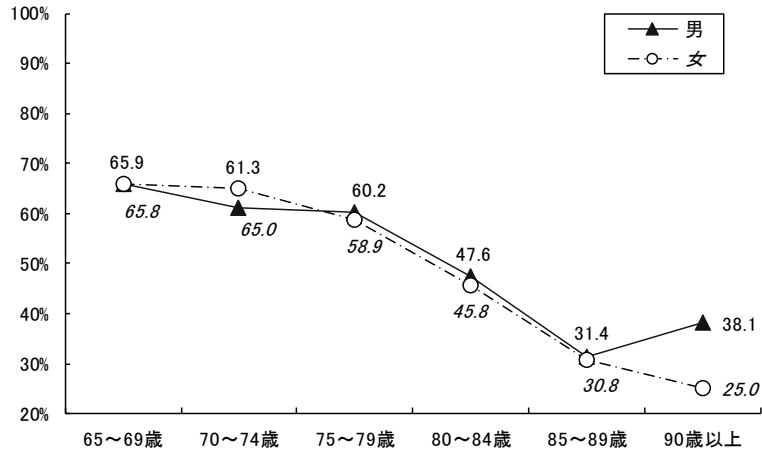


(注1) ( ) 内の数値は性・年齢階級別の総数である。他の項目は省略してあるが、同じ数値である。

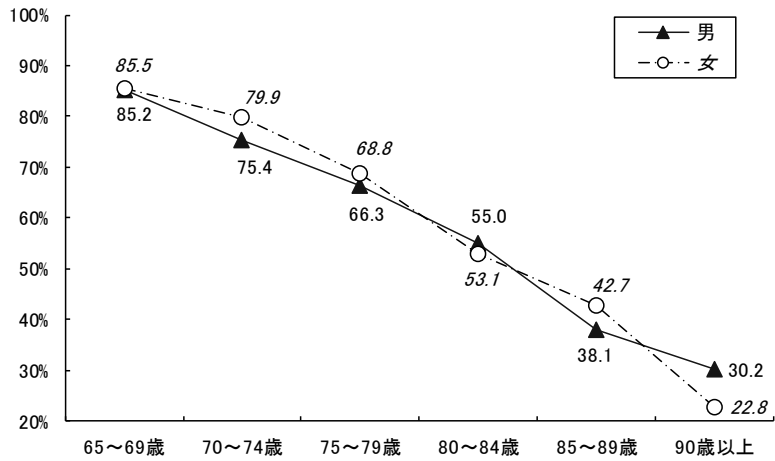
(注2) 折れ線グラフの数値は、日常生活動作 (ADL) の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した高齢者の割合である。他の項目も同様。

(注3) 調査は、在宅の高齢者のみが対象のため、回答者の傾向として比較的元気な方が多いことが予想される。

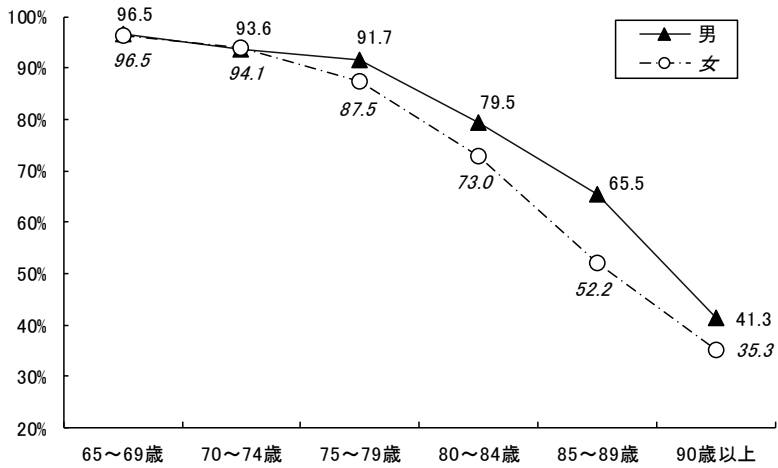
【視力】(日常生活に支障はない)



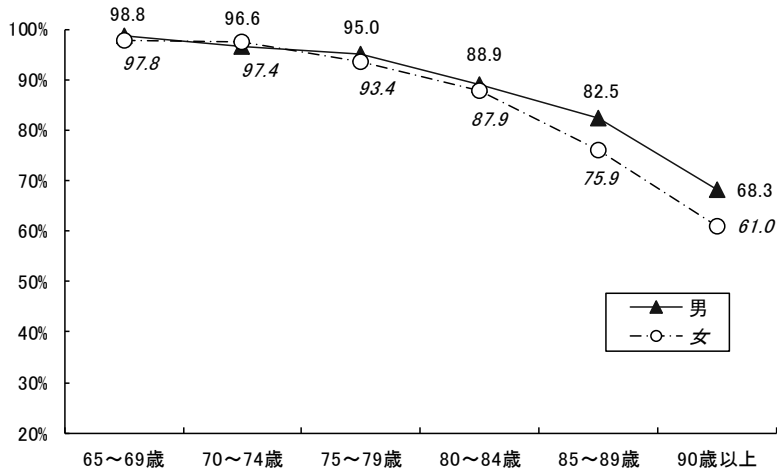
【意思伝達】(日常生活に支障はない)



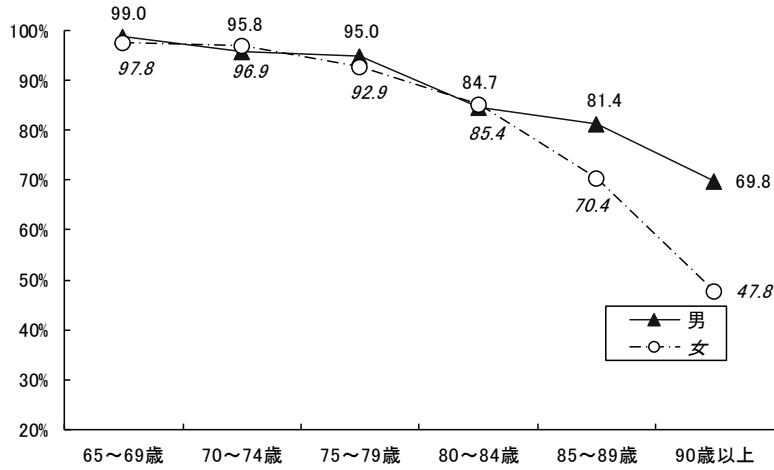
【歩行】(ひとりで全部できる)



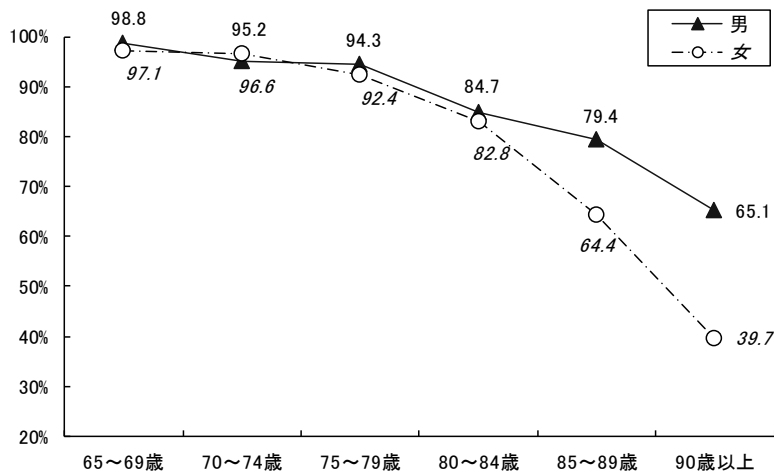
【食事】(ひとりで全部できる)



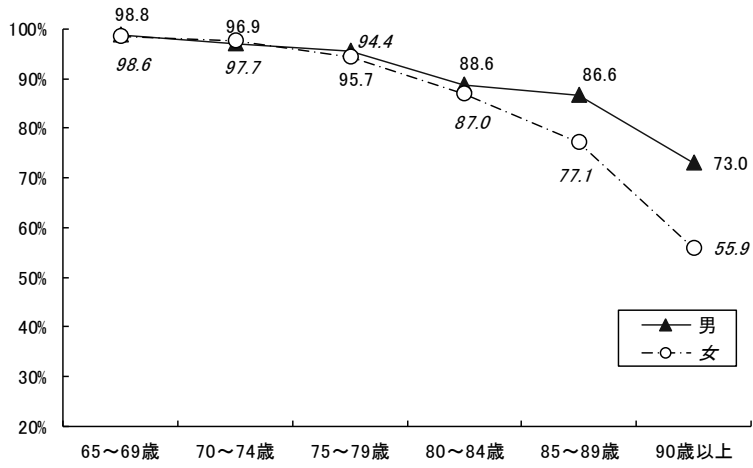
【着替え】(ひとりで全部できる)



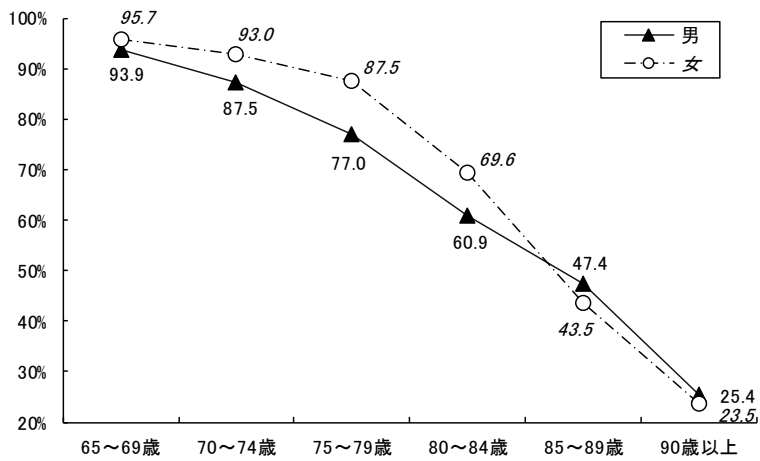
【入浴】(ひとりで全部できる)



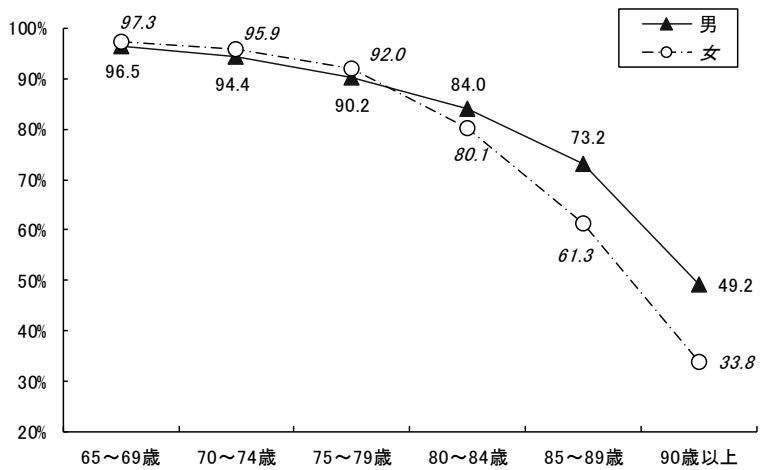
【排せつ】(ひとりで全部できる)



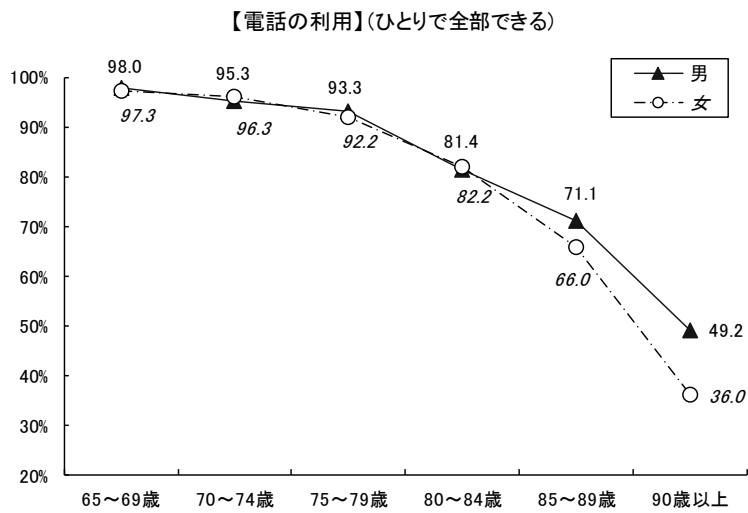
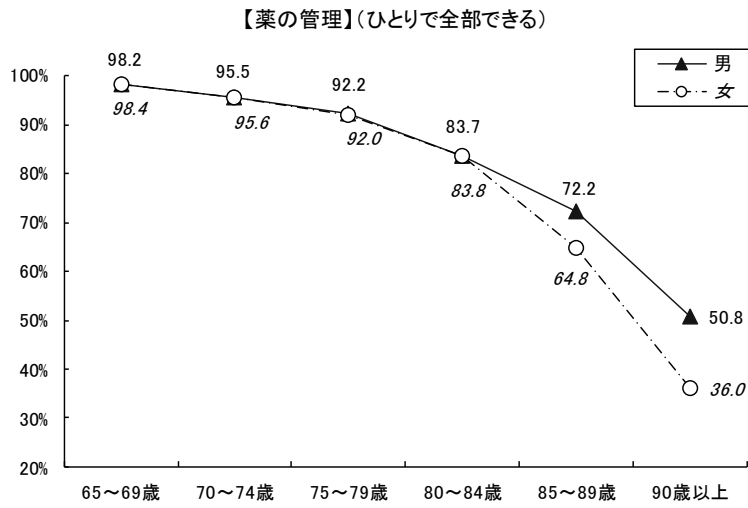
【家事一般】(ひとりで全部できる)



【金銭の管理】(ひとりで全部できる)







#### (4) 日常生活動作 (ADL) (総合)

日常生活動作 (ADL) を総合的にみるため、下記の表 3-5 の段階に分けて聞いたところ、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」自立した人の割合が 90.3%で最も高くなっている。(図 3-11)

図 3-11 日常生活動作 (ADL) (総合) - 過去調査との比較

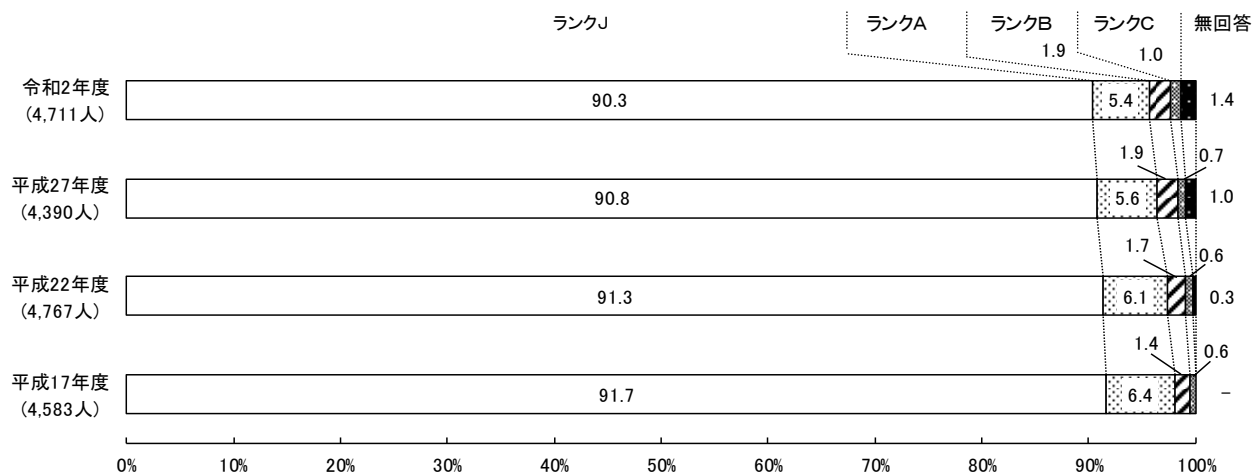


表 3-5 日常生活動作 (総合)

ランクJ	生活自立	①日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる (1) 公共交通機関を利用してひとりで外出できる (2) 隣近所へならひとりで外出できる
ランクA	準寝たきり	②屋内での生活はほぼ自分でできるが、外出するには介助が必要である (3) 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する (4) 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ランクB	寝たきり	③屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる (5) 自分で車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる (6) 介助により車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要である
ランクC		④食事、着替え、排せつの全てで全面的な介助が必要であり、1日中ベッドの上で過ごす (7) 自力で寝返りをうてる (8) 自力で寝返りをうてない

(注) ランクの区分は「障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) 判定基準」(厚生労働省)による。

ア 日常生活動作（ADL）（総合）－性・年齢階級別

「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、85歳以上では男性75.9%、女性57.1%

日常生活動作（ADL）（総合）を性・年齢階級別にみると、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、男女ともに年齢階級が上がるにつれて低くなっている（男性98.8%～75.9%、女性97.5%～57.1%）。

また、「公共交通機関を利用してひとりで遠くまで外出できる」割合は、85歳以上で、男性54.5%、女性36.2%と男性の方が18.3ポイント高くなっている。（表3-6）

表3-6 日常生活動作（ADL）（総合）－性・年齢階級別

性・年齢階級別	総数	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる				公共交通機関を利用してひとりで遠くまで外出できる					近所へならひとりで外出できる					屋内での生活はほぼ自分でできるが、外出するには介助が必要である					屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる					自分で車椅子などに座り、食事を排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる					自分で車椅子などに座り、食事を排せつは介助が必要である					食事・着替え、排せつの全てで全面的な介助が必要であり、1日中ベッドの上で過ごす					自力で寝返りをうてる					自力で寝返りをうてない					無回答				
		外出できる	公共交通機関を利用してひとりで遠くまで外出できる	隣近所へならひとりで外出できる	無回答	外出するには介助が必要である	屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる	自分で車椅子などに座り、食事を排せつは介助が必要である	自分で車椅子などに座り、食事を排せつは介助が必要である	食事・着替え、排せつの全てで全面的な介助が必要であり、1日中ベッドの上で過ごす	自力で寝返りをうてる	自力で寝返りをうてない	無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	無回答																																				
総数	100.0 (4,711)	90.3	81.3	8.0	0.9	5.4	2.9	2.4	0.1	1.9	0.9	1.0	0.0	1.0	0.3	0.7	-	1.4																																					
男	100.0 (2,138)	92.9	85.2	6.8	0.9	4.3	2.1	2.1	0.0	1.0	0.6	0.4	-	0.5	0.1	0.4	-	1.3																																					
	65～69歳 (492)	98.8	94.7	3.3	0.8	0.4	0.2	0.2	-	-	-	-	-	0.2	-	0.2	-	0.6																																					
	70～74歳 (622)	96.5	90.7	4.7	1.1	1.1	0.3	0.8	-	0.2	0.2	-	-	0.2	-	0.2	-	2.1																																					
	75～79歳 (460)	95.4	90.7	4.3	0.4	2.4	1.5	0.9	-	0.7	0.4	0.2	-	0.4	-	0.4	-	1.1																																					
	80～84歳 (307)	86.6	76.2	8.8	1.6	8.8	3.6	4.9	0.3	2.3	1.3	1.0	-	1.3	0.7	0.7	-	1.0																																					
	85歳以上 (257)	75.9	54.5	20.6	0.8	17.1	9.3	7.8	-	4.3	2.3	1.9	-	1.2	0.4	0.8	-	1.6																																					
	女	100.0 (2,573)	88.1	78.2	9.1	0.9	6.4	3.6	2.7	0.1	2.6	1.1	1.4	0.1	1.4	0.5	0.9	-	1.4																																				
	65～69歳 (489)	97.5	94.5	2.0	1.0	1.6	1.0	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8																																				
	70～74歳 (682)	96.6	91.3	4.4	0.9	1.5	0.6	0.9	-	0.1	-	0.1	-	0.6	0.1	0.4	-	1.2																																					
	75～79歳 (576)	93.8	84.2	8.3	1.2	2.8	1.2	1.4	0.2	1.2	0.5	0.5	0.2	1.0	0.2	0.9	-	1.2																																					
	80～84歳 (437)	84.4	68.6	15.3	0.5	8.2	3.9	3.9	0.5	4.1	1.4	2.7	-	1.4	0.7	0.7	-	1.8																																					
85歳以上 (389)	57.1	36.2	20.1	0.8	24.4	15.2	9.3	-	10.8	5.1	5.4	0.3	5.4	2.1	3.3	-	2.3																																						

## 6 動作能力類型

調査対象者の動作能力について、下記の表3-7のとおり類型分けを行った。

「障害のない高齢者」の割合が43.3%で最も高く、次いで「軽い障害のある高齢者」が28.6%、「比較的重い障害のある高齢者」が14.0%、「寝たきりなど的高齢者」が8.4%となっている。(表3-8)

表3-7 動作能力類型の条件

		「日常生活動作（総合）」 (P48、表3-5)	「日常生活動作」 (P41、表3-4)
生活自立の 高齢者	障害のない高齢者	ランクJ	すべての選択肢が1(ひとりで全部できる 又は日常生活に支障はない)に該当
	軽い障害のある高齢者		B欄に該当がなく A欄に1つでも1以外に該当
	比較的重い障害のある高齢者		B欄に1つでも該当
寝たきりなどの 高齢者	寝たきりに近い高齢者	ランクA	
	寝たきり高齢者	ランクB又は ランクC	

表3-8 動作能力類型—過去調査との比較

	総 数	高 寝 た き り な ど の 高 齢 者	寝 た き り 高 齢 者	高 寝 た き り に 近 い 高 齢 者	あ 比 較 的 重 い 障 害 の あ る 高 齢 者	高 軽 い 障 害 の あ る 高 齢 者	障 害 の な い 高 齢 者	無 回 答
総数	100.0 (4,711)	8.4	2.9	5.4	14.0	28.6	43.3	5.8
平成27年度	100.0 (4,390)	8.2	2.6	5.6	8.1	20.7	60.7	2.3
平成22年度	100.0 (4,767)	8.4	2.3	6.1	8.7	21.9	60.2	0.7
【参考】								
平成17年度	100.0 (4,583)	8.3	1.9	6.4	2.0	17.7	72.0	-
平成12年度	100.0 (5,086)	6.2	2.2	4.0	5.5	13.9	74.4	-
平成7年度	100.0 (8,686)	3.5	1.7	1.9	3.4	19.0	74.1	-
平成2年度	100.0 (8,715)	3.6	1.4	2.2	2.7	18.0	75.7	-
昭和60年度	100.0 (8,992)	3.6	1.5	2.1	2.1	22.1	72.2	-

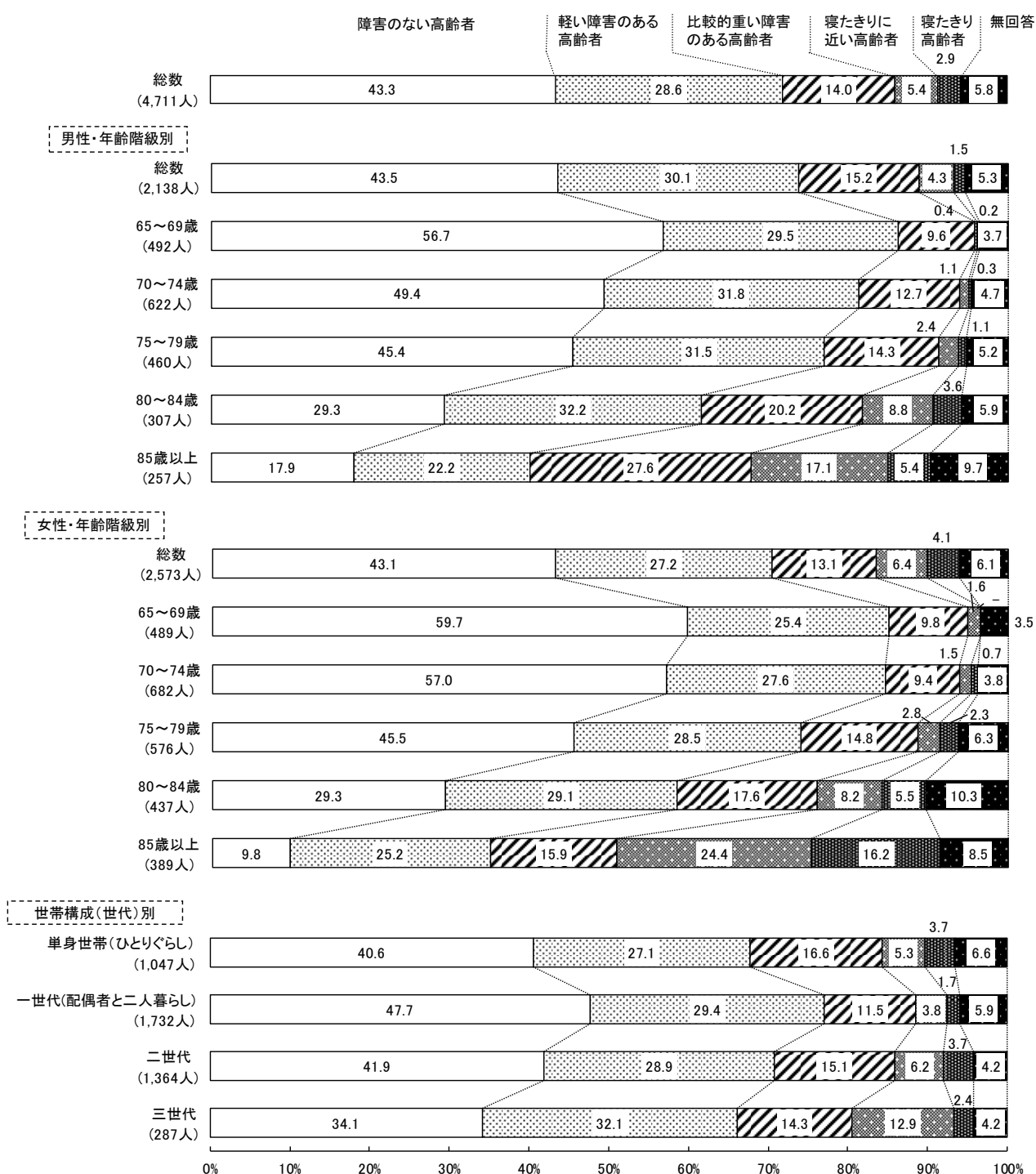
(注) 平成17年度調査までとは、「日常生活動作(ADL)」(P41)の選択肢の表現が一部異なっており、厳密に比較を行うことはできないため、参考値である。

(1) 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成(世代)別

「障害のない高齢者」の割合は、男女とも65～69歳では5割超で、年齢階級が上がるとともに減少

動作能力類型を性・年齢階級別にみると、「障害のない高齢者」の割合は、男女とも65～69歳では5割を超えているが、年齢が上がるとともに減少し、85歳以上では男性17.9%、女性9.8%まで減少している。(図3-12)

図3-12 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成(世代)別



## 7 傷病等の状況

### (1) 現在かかっている傷病の有無と傷病名〔複数回答〕

現在、何らかの傷病にかかっている人の割合は 87.1%

現在、何らかの傷病にかかっているか聞いたところ、「現在傷病にかかっている」人の割合は 87.1%となっている。また、現在かかっている傷病名をみると、「高血圧症」の割合が 41.8%で最も高く、次いで「歯の病気（虫歯を含む）」29.5%、「腰痛症」23.1%となっている。一方、「現在傷病にかかっていない」人は 10.6%となっている。（図 3-13、図 3-14）

図 3-13 現在かかっている傷病の有無

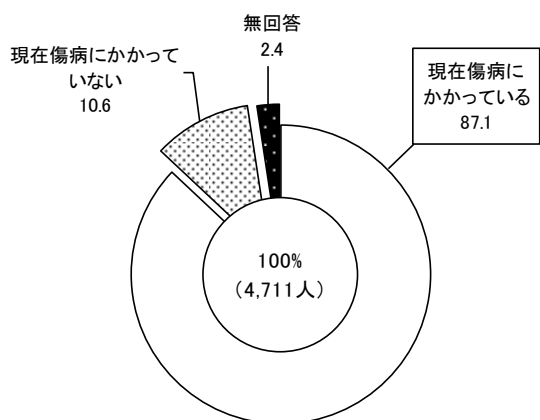


図 3-14 現在かかっている傷病名〔複数回答〕  
(上位5つ)

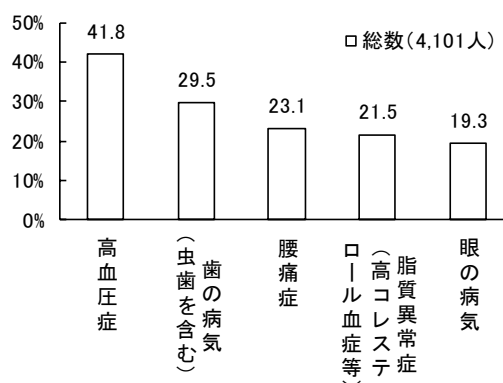


表 3-9 現在かかっている傷病〔複数回答〕一性、年齢階級、動作能力類型別

	総数	内分泌・代謝障害					精神・神経					眼の病気					呼吸器系					その他				
		糖尿病	肥満症	脂質異常症 (高コレステロール血症)	甲状腺の病気	うつ病やその他のこころの病気	認知症	パーキンソン病	その他神経の病気 (神経痛・麻痺等)	眼の病気	耳の病気	循環器系	高血圧症	脳卒中 (脳出血、脳梗塞等)	狭心症・心筋梗塞	その他循環器系の病気	呼吸器系	急性鼻咽頭炎 (かぜ)	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	喘息	花粉症	その他呼吸器系の病気			
総数	1000 (4,711)	33.8	13.9	4.8	18.7	3.0	9.0	1.9	3.7	0.7	3.4	16.8	5.4	44.6	36.4	3.0	5.3	6.2	24.4	0.6	7.7	0.6	3.4	15.3	3.4	
性別	男 (2,138)	31.9	17.1	5.2	14.7	1.1	7.3	1.4	2.1	0.7	3.5	15.0	5.4	49.2	38.6	4.1	7.0	7.5	23.9	0.5	6.8	0.8	2.9	14.9	3.9	
	女 (2,573)	35.4	11.2	4.5	22.1	4.5	10.4	2.3	5.0	0.7	3.3	18.4	5.4	40.7	34.5	2.1	3.9	5.2	24.9	0.7	8.5	0.5	3.8	15.7	2.9	
年齢階級別	65~69歳 (981)	32.0	10.3	5.1	19.6	3.1	4.4	1.5	0.4	0.2	2.5	12.9	4.1	35.9	30.5	1.8	2.9	4.7	28.6	0.2	10.8	0.1	2.0	21.7	3.0	
	70~74歳 (1,304)	36.0	14.1	5.8	20.8	2.8	5.1	2.1	0.7	0.3	2.5	16.7	2.8	40.6	34.6	1.9	4.3	4.1	25.6	0.2	8.2	0.3	3.1	18.6	2.2	
	75~79歳 (1,036)	37.1	15.3	5.3	20.5	2.9	6.9	1.6	2.2	0.9	2.7	16.1	5.5	45.2	37.1	3.0	5.7	5.9	22.5	0.7	6.4	0.9	3.7	13.0	3.9	
	80~84歳 (744)	31.2	14.5	4.0	15.7	3.5	12.4	1.2	5.6	0.9	5.2	19.4	6.9	51.5	39.7	4.0	7.3	8.6	24.1	1.5	6.6	1.3	4.3	11.4	4.7	
	85歳以上 (646)	30.2	15.6	2.5	14.1	2.8	23.5	3.1	14.6	1.7	5.4	21.2	10.7	56.7	44.1	5.6	8.4	10.5	19.2	0.9	5.6	0.9	4.6	7.3	4.0	
動作能力類型別	寝たきり高齢者 (138)	22.5	13.8	0.7	8.0	3.6	55.8	8.7	39.9	7.2	5.8	15.9	6.5	47.8	28.3	15.9	10.9	7.2	12.3	-	2.2	1.4	2.9	1.4	5.1	
	寝たきりに近い高齢者 (256)	34.0	17.6	3.9	17.6	3.9	39.8	5.9	24.2	2.3	12.1	21.1	10.2	59.4	39.5	8.6	9.4	14.5	21.9	1.2	5.5	2.0	5.5	8.2	4.7	
	比較的重い障害のある高齢者 (661)	39.9	16.6	6.5	21.9	3.5	14.8	3.9	4.8	1.1	6.1	37.5	14.4	50.1	39.9	3.6	9.1	7.4	29.8	1.8	10.1	1.2	5.6	16.9	4.5	
	軽い障害のある高齢者 (1,345)	36.2	14.1	5.1	19.9	3.5	5.1	1.0	0.7	0.4	3.0	17.1	5.9	44.7	37.2	2.2	4.1	6.8	25.0	0.4	8.6	0.6	3.4	16.1	3.1	
	障害のない高齢者 (2,040)	31.9	11.9	4.6	19.1	2.4	2.5	0.7	0.1	0.2	1.4	9.5	1.0	40.9	35.1	1.6	3.8	4.4	23.6	0.4	7.4	0.2	2.3	16.6	2.7	

ア 現在かかっている傷病〔複数回答〕一性、年齢階級、動作能力類型別

男女とも、「高血圧症」の割合が最も高く、3割超

現在かかっている傷病を性別でみると、男性では、「高血圧症」の割合が38.6%で最も高く、次いで「歯の病気（虫歯を含む）」27.0%、「腰痛症」19.9%、「糖尿病」17.1%となっている。女性では、「高血圧症」の割合が34.5%で最も高く、次いで「歯の病気（虫歯を含む）」24.6%、「脂質異常症（高コレステロール血症）」22.1%「腰痛症」20.2%となっている。

年齢階級別にみると、いずれの階級においても「高血圧症」の割合が最も高くなっている（30.5%～44.1%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者は、「認知症」の割合が39.9%と最も高くなっている。寝たきりに近い高齢者、比較的重い障害のある高齢者、軽い障害のある高齢者、障害のない高齢者は、いずれも「高血圧症」の割合が最も高くなっている（35.1%～39.9%）。（表3-9）

消化器系	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他消化器系の病気	歯の病気 (虫歯を含む)	皮膚	アトピー性皮膚炎	その他皮膚の病気	筋骨格系	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症	腰痛症	骨粗しょう症	尿路性器系	腎臓の病気	前立腺肥大症 (更年期障害等)	閉経期又は閉経後障害	損傷	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物(がん)	その他	不明	特になし	無回答
10.6	5.1	2.7	3.6	<b>27.0</b>	9.0	1.5	7.7	31.0	6.3	1.5	5.1	6.7	<b>19.9</b>	1.6	18.4	4.2	15.1	0.1	2.7	1.7	1.1	2.2	3.2	1.4	0.4	10.8	2.3
9.4	4.4	2.3	3.3	<b>24.6</b>	5.6	1.0	4.5	39.8	0.4	3.1	8.1	12.5	<b>20.2</b>	14.3	2.9	2.3	-	0.6	4.4	3.7	0.9	2.1	3.0	2.8	0.5	10.4	2.4
9.4	3.8	1.9	4.1	24.8	7.3	1.8	5.5	29.4	4.2	2.2	6.3	9.8	15.6	2.7	5.8	1.8	3.6	0.4	1.8	0.9	0.9	0.5	1.7	2.1	0.1	15.8	1.5
9.4	4.7	2.5	3.1	25.8	7.4	0.8	6.7	32.8	3.5	2.2	6.0	9.1	17.1	5.8	8.4	2.5	6.0	0.3	2.3	1.5	0.8	1.8	3.1	1.5	0.3	12.1	2.0
10.8	5.9	3.0	2.8	26.7	6.8	1.3	5.6	37.4	2.9	2.1	5.2	9.6	22.0	9.7	9.5	3.2	6.6	0.4	3.4	2.7	0.8	2.0	3.6	2.4	0.5	9.6	3.4
9.4	4.0	2.0	3.6	25.5	7.4	1.6	6.0	40.2	2.6	3.1	6.7	9.9	24.2	12.5	14.9	5.4	9.7	0.5	5.1	4.0	1.3	3.1	3.1	2.7	0.8	6.6	2.4
11.3	4.8	3.3	4.2	25.4	6.5	0.8	5.9	44.1	1.5	2.6	11.5	11.9	25.1	16.7	14.1	3.9	10.7	0.2	7.9	6.7	1.4	4.5	4.5	2.6	0.8	5.7	2.8
10.9	2.9	5.8	4.3	17.4	7.2	-	7.2	33.3	1.4	3.6	6.5	2.9	10.9	16.7	8.0	5.1	2.2	0.7	12.3	11.6	1.4	2.9	2.9	5.8	0.7	1.4	0.7
11.3	3.1	3.1	5.5	26.2	9.8	1.2	8.6	46.1	2.0	3.1	9.0	12.1	25.8	21.5	14.5	6.6	9.0	-	10.2	9.0	1.2	7.8	6.6	5.1	1.6	2.0	1.6
15.4	7.4	3.9	5.0	36.5	9.8	1.8	8.2	46.9	4.4	3.5	10.0	15.6	29.3	11.2	15.6	4.7	10.3	0.9	5.6	3.8	2.0	4.5	3.3	2.0	0.9	3.8	2.0
11.9	6.8	2.5	3.5	29.7	7.8	1.6	6.3	40.1	3.4	2.2	8.3	10.8	23.6	8.6	10.2	3.3	7.3	0.4	3.3	2.3	1.0	1.6	3.5	2.1	0.3	8.9	1.6
6.7	2.8	1.6	2.6	20.5	5.7	0.9	4.9	28.6	2.9	1.9	4.7	7.6	14.7	5.6	7.4	2.0	5.4	0.2	1.8	1.3	0.6	1.0	2.5	1.9	0.1	15.9	2.3

(2) 通院・往診（訪問診療）の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

何らかの傷病にかかっている人のうち、「通院している」割合は82.7%

何らかの傷病にかかっている人（4,101人）に、通院しているかどうか聞いたところ「通院している」割合が82.7%、「往診（訪問診療）してもらっている」が3.3%、「通院・往診（訪問診療）両方とも利用していない」が8.6%となっている。

動作能力類型別にみると、寝たきりの高齢者は、「往診（訪問診療）してもらっている」割合が50.4%で最も高くなっている。（図3-15）

図3-15 通院・往診（訪問診療）の有無一性、年齢階級、動作能力類型別



(注1) 通院と往診（訪問診療）の両方を利用している場合は、より頻度の多い方を回答。

(注2) ※は、調査平成27年度調査では「通院していない」としていた。



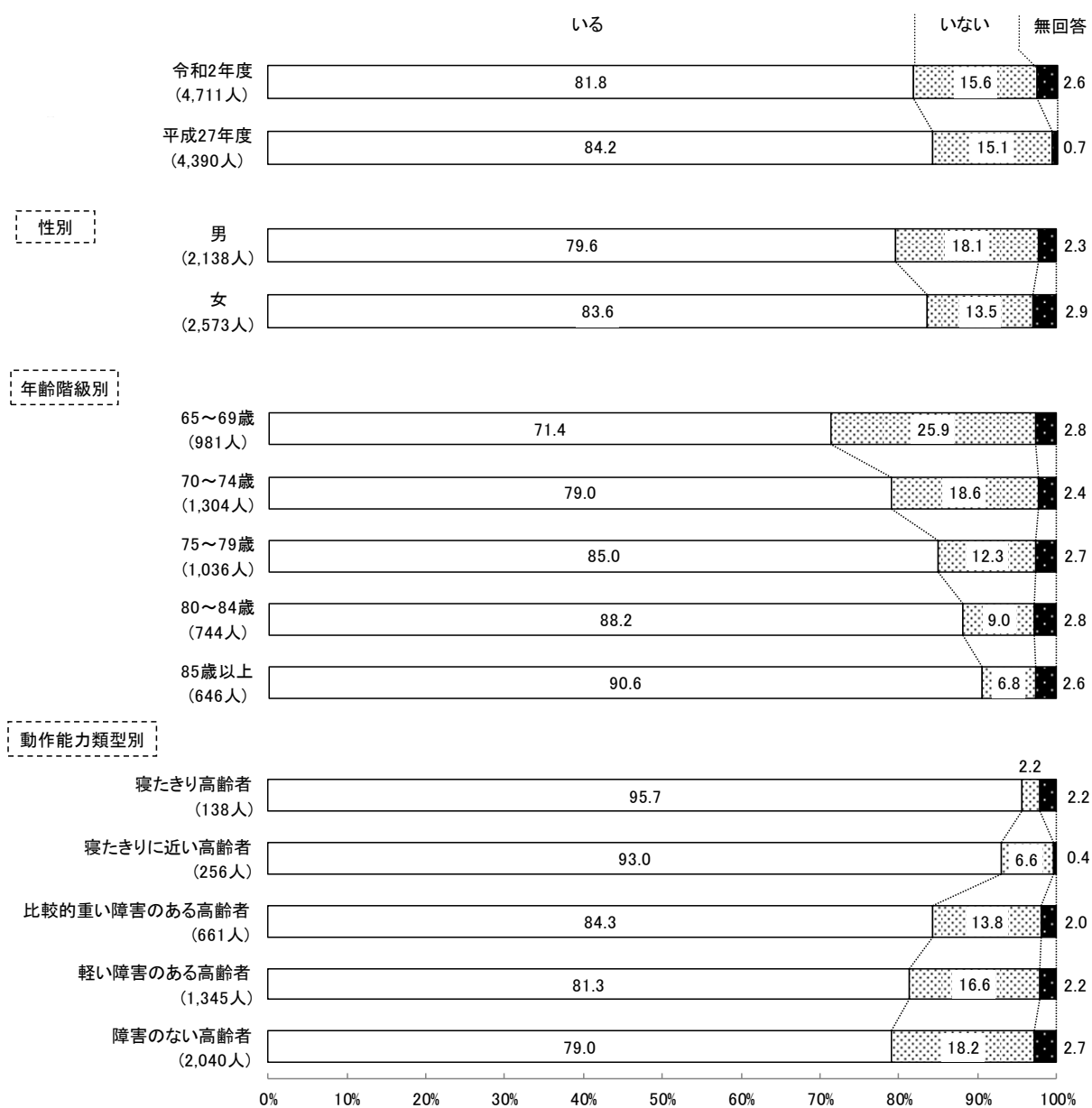
### (3) かかりつけ医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

年齢階級が上がるにつれて、かかりつけ医が「いる」人の割合は高くなり、85歳以上で約9割

かかりつけ医の有無を聞いたところ、「いる」人の割合は81.8%で、「いない」は15.6%であった。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて「いる」人の割合は高くなり、85歳以上では90.6%となっている。(図3-16)

図3-16 かかりつけ医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別



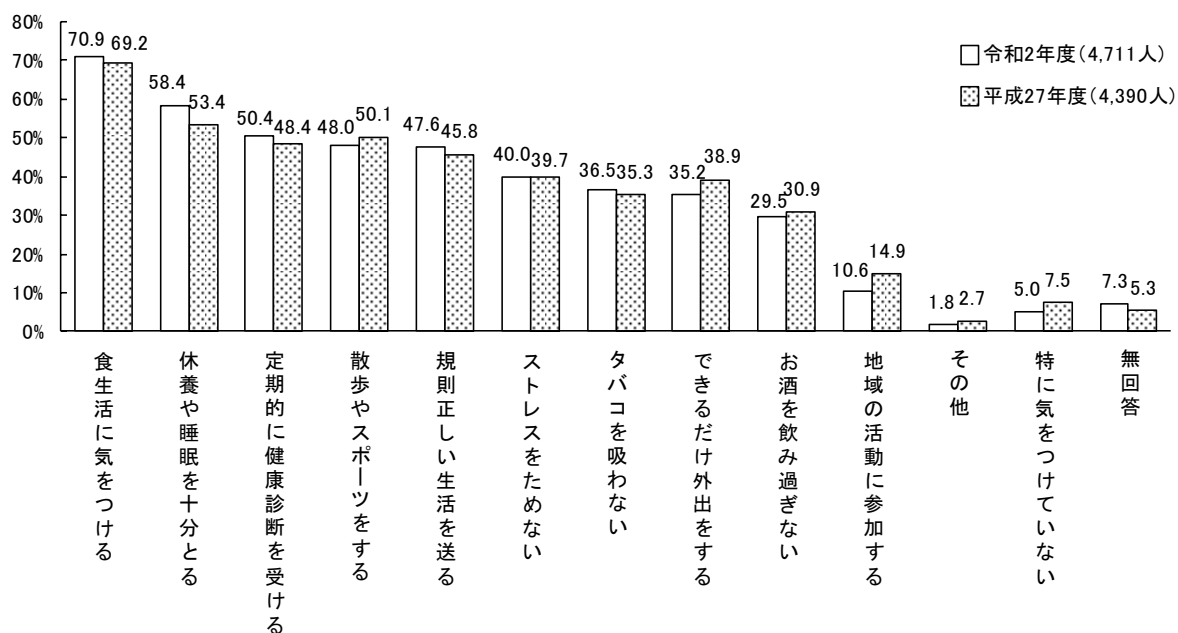
## 8 健康のために気をつけていること

健康のために気をつけていることは、「食生活に気をつける」の割合が最も高く、約7割

健康の維持増進のために気をつけていることを聞いたところ、「食生活に気をつける」の割合が70.9%で最も高くなっている。

平成27年度調査と比べると、「休養や睡眠を十分とる」が5.0ポイント増加している。一方、「地域の活動に参加する」が4.3ポイント減少している。(図3-17)

図3-17 健康のために気をつけていること〔複数回答〕



(1) 健康のために気をつけていること〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに、年齢階級に関わらず「食生活に気をつける」の割合が最も高い

健康のために気をつけていることについて、性別で見ると、男女ともに「食生活に気をつける」の割合が最も高く、男性69.1%、女性72.4%となっている。

「タバコを吸わない」の割合は、女性が27.6%であるのに対し、男性は47.3%で、19.7ポイントの差がある。また、「お酒を飲み過ぎない」の割合は、女性が21.7%であるのに対し、男性が38.8%で、17.1ポイントの差がある。(表3-10)

表3-10 健康のために気をつけていること〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	食生活に気をつける	休養や睡眠を十分とる	ストレスをためない	規則正しい生活を送る	散歩やスポーツをする	できるだけ外出をする	地域の活動に参加する	定期的に健康診断を受ける	お酒を飲み過ぎない	タバコを吸わない	その他	特に気をつけていない	無回答	
総数	100.0 (4,711)	70.9	58.4	40.0	47.6	48.0	35.2	10.6	50.4	29.5	36.5	1.8	5.0	7.3	
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	<u>69.1</u>	57.9	38.0	43.4	52.8	35.3	9.9	51.2	<u>38.8</u>	<u>47.3</u>	1.6	5.1	5.2
	65～74歳	100.0 (1,114)	69.2	57.8	40.0	42.1	56.3	34.0	8.6	51.5	37.7	45.7	1.5	6.3	2.2
	75～84歳	100.0 (767)	71.1	57.8	36.4	46.0	54.2	37.8	12.0	51.2	40.9	50.6	1.4	3.9	6.5
	85歳以上	100.0 (257)	63.0	58.8	34.2	40.9	33.5	33.5	9.3	49.4	37.4	44.4	2.3	3.9	14.8
	女	100.0 (2,573)	<u>72.4</u>	58.7	41.7	51.1	43.9	35.2	11.2	49.7	<u>21.7</u>	<u>27.6</u>	2.0	4.9	9.0
	65～74歳	100.0 (1,171)	78.9	63.5	46.5	55.6	52.3	33.8	9.3	51.4	25.9	31.3	2.4	4.7	2.6
	75～84歳	100.0 (1,013)	73.5	58.6	42.6	51.2	44.0	41.9	15.4	53.8	21.0	27.5	1.9	4.8	8.7
	85歳以上	100.0 (389)	49.6	44.7	24.4	37.3	18.5	21.9	5.7	34.2	10.8	16.5	1.0	5.4	29.0

## 9 終末期に受けたい医療

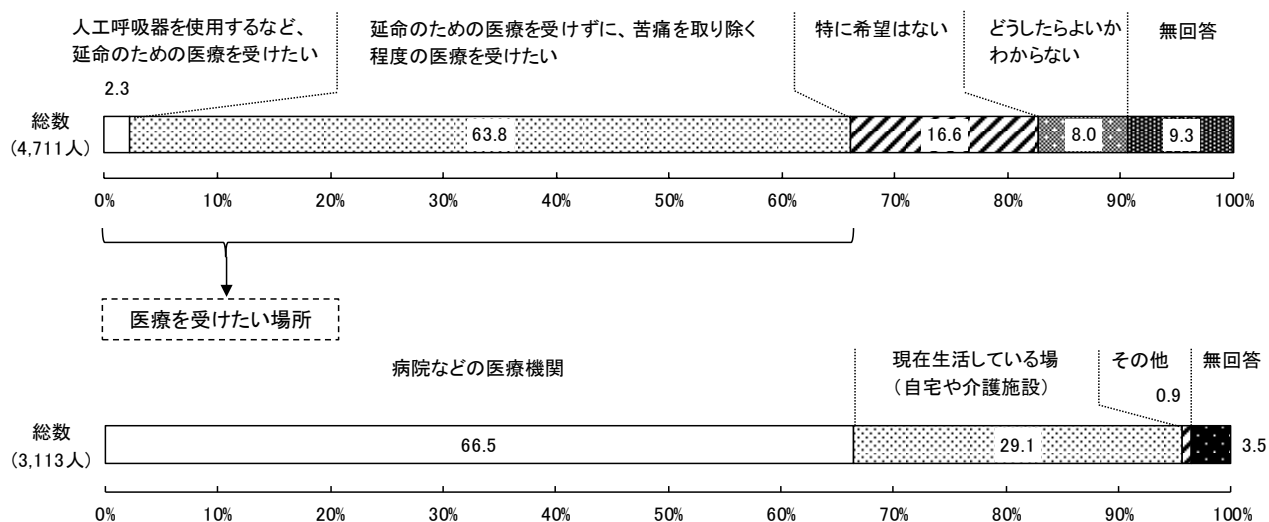
### (1) 終末期に受けたい医療の内容、医療を受けたい場所

「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が最も高く、63.8%

末期のがんや重い病気により、体調が回復しないで自分の死が近いと感じたとき、どのような医療を受けたいか聞いたところ、「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が63.8%で最も高く、次いで「特に希望はない」が16.6%となっている。

また、「延命のための医療を受けたい」又は「苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」と回答した人(3,113人)に医療を受けたい場所を聞いたところ、「病院などの医療機関」の割合が66.5%で最も高くなっている。(図3-18)

図3-18 終末期に受けたい医療の内容、医療を受けたい場所



## ア 終末期に受けてほしい医療の内容

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けてほしい医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について「詳しく話し合っている」及び「一応話し合っている」人では「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が7割超

終末期に受けてほしい医療の内容を性別で見ると、男女ともに「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が最も高く、男性 59.8%、女性 67.1%となっている。また「人工呼吸器を使用するなど、延命のための医療を受けたい」の割合は、男性 3.4%、女性 1.4%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別で見ると、「詳しく話し合っている」及び「一応話し合っている」人では「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が7割を超えている(72.7%、78.5%)。(表 3-11)

表 3-11 終末期に受けてほしい医療の内容

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けてほしい医療についての話し合いの有無別

		総数	延命のための医療を受けずに、人工呼吸器を使用するなど、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい	苦痛を取り除く程度の医療を受けずに、延命のための医療を受けたい	特に希望はない	どうしたらよいかわからない	無回答
総数		100.0 (4,711)	2.3	63.8	16.6	8.0	9.3
性別	男	100.0 (2,138)	3.4	59.8	21.5	8.1	7.2
	女	100.0 (2,573)	1.4	67.1	12.6	7.9	11.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (981)	3.4	69.5	15.6	8.6	3.0
	70～74歳	100.0 (1,304)	2.3	68.9	16.3	8.2	4.2
	75～79歳	100.0 (1,036)	1.4	64.5	18.0	7.9	8.3
	80～84歳	100.0 (744)	2.2	59.8	16.4	7.3	14.4
	85歳以上	100.0 (646)	2.2	48.3	17.0	7.4	25.1
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	2.0	64.8	16.8	8.1	8.3
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	2.1	60.6	18.1	8.8	10.5
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	1.7	68.5	16.6	6.8	6.4
	その他	100.0 (157)	3.8	58.0	10.2	15.9	12.1
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	2.5	63.8	17.1	7.7	8.9
終末期に受けてほしい医療についての話し合いの有無別	詳しく話し合っている	100.0 (77)	2.6	72.7	9.1	2.6	13.0
	一応話し合っている	100.0 (976)	1.2	78.5	10.1	2.7	7.5
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (2,622)	2.9	69.9	15.8	8.4	3.1
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (703)	2.4	43.5	34.7	16.5	2.8

## イ 終末期に医療を受けたい場所

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期に医療を受けたい場所を性別で見ると、男女ともに「病院などの医療機関」の割合が最も高く、男性 68.3%、女性 65.1%となっている。

通院・往診（訪問診療）の有無別で見ると、往診（訪問診療）してもらっている人では、「現在生活している場（自宅や介護施設）」の割合が 51.9%となっている。

終末期に受けたい医療の内容別で見ると、人工呼吸器を使用するなど、延命のための医療を受けたい人では「病院などの医療機関」の割合が、92.5%となっている。（表 3-12）

表 3-12 終末期に医療を受けたい場所

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

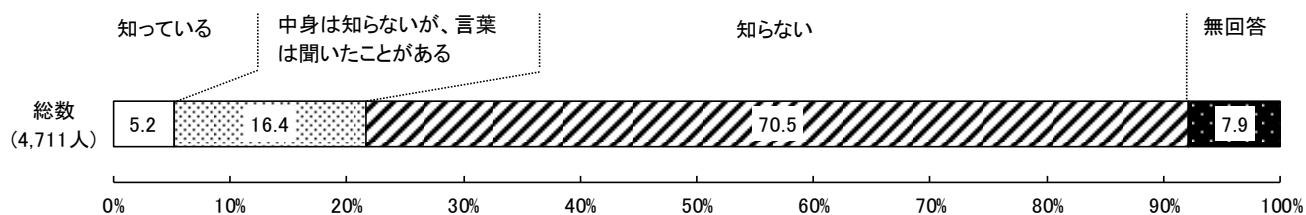
		総数	病院などの医療機関	（現在生活や介護している場）	その他	無回答
総数		100.0 (3,113)	66.5	29.1	0.9	3.5
性別	男	100.0 (1,351)	<u>68.3</u>	28.3	0.5	2.8
	女	100.0 (1,762)	<u>65.1</u>	29.7	1.1	4.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (715)	65.5	32.0	0.8	1.7
	70～74歳	100.0 (929)	65.3	31.1	1.6	1.9
	75～79歳	100.0 (682)	70.5	25.5	0.7	3.2
	80～84歳	100.0 (461)	67.7	26.7	0.2	5.4
	85歳以上	100.0 (326)	62.0	27.9	-	10.1
（通院・往診の有無別）	通院している	100.0 (2,362)	68.5	27.2	0.8	3.4
	往診（訪問診療）してもらっている	100.0 (52)	19.2	<u>51.9</u>	-	28.8
	通院・往診（訪問診療）両方とも利用していない	100.0 (238)	58.8	39.1	0.4	1.7
終末期に受けたい医療内容別	人工呼吸器を使用するなど、延命のための医療を受けたい	100.0 (107)	<u>92.5</u>	3.7	-	3.7
	延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい	100.0 (3,006)	65.6	30.0	0.9	3.5
終末期に受けたい医療の話し合いの有無別	詳しく話し合っている	100.0 (58)	60.3	32.8	-	6.9
	一応話し合っている	100.0 (778)	61.4	31.1	0.5	6.9
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (1,908)	68.3	28.5	1.0	2.3
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (323)	70.3	27.2	0.9	1.5

## 10 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を「知っている」人の割合は5.2%

「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」又は「人生会議」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」の割合が5.2%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が16.4%となっている。一方、「知らない」の割合は70.5%となっている。（図3-19）

図3-19 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度



### ※ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い共有する取組をいう。

「人生会議」の愛称で呼ばれることもある。

(1) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について詳しく話し合っている人では「知っている」の割合が約2割

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度を性別で見ると、「知っている」の割合は、男性4.5%、女性5.7%となっている。

終末期の医療について話し合いの有無別で見ると詳しく話し合っている人では「知っている」の割合が18.2%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が24.7%となっている。（表3-13）

表3-13 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療について話し合いの有無別

		総数	知っている	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
総数		100.0 (4,711)	5.2	16.4	70.5	7.9
性別	男	100.0 (2,138)	4.5	15.4	74.6	5.5
	女	100.0 (2,573)	5.7	17.3	67.2	9.8
年齢階級別	65～69歳	100.0 (981)	5.5	16.0	75.9	2.5
	70～74歳	100.0 (1,304)	6.2	13.8	76.8	3.2
	75～79歳	100.0 (1,036)	4.3	19.2	70.6	5.9
	80～84歳	100.0 (744)	5.0	21.0	62.5	11.6
	85歳以上	100.0 (646)	4.0	12.7	59.0	24.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	5.7	16.6	70.9	6.8
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	5.2	16.2	70.5	8.1
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	6.0	17.1	71.6	5.3
	その他	100.0 (157)	5.7	14.6	67.5	12.1
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	4.6	16.5	70.2	8.8
終末期の話し合いの有無別	詳しく話し合っている	100.0 (77)	18.2	24.7	44.2	13.0
	一応話し合っている	100.0 (976)	8.8	20.3	61.1	9.8
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (2,622)	4.8	18.5	75.9	0.7
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (703)	2.1	8.1	89.0	0.7



## 11 終末期に受けたい医療についての話し合い

自身の人生の最終段階で受けたい医療について、家族や医療関係者等と話し合っているか聞いたところ、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた「話し合っている」割合が22.4%となっている。また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」割合は55.7%となっている。(図3-20)

「話し合っている」と回答した人(1,053人)に話し合った相手と話し合った内容を聞いたところ、話し合った相手では「家族・親族」の割合が94.5%で最も高く、話し合った内容では「延命のための医療を受けたいか」が53.6%で最も高くなっている。(図3-21、図3-22)

また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」と回答した人(2,622人)に今後話し合いたい相手と話し合いたい内容を聞いたところ、今後話し合いたい相手では、「話し合っている」と回答した人と同様に「家族・親族」の割合が81.5%で最も高くなっている。今後話し合いたい内容では、「話し合っている」と回答した人とは異なり、「医療・療養を受けたい場所」が34.9%で最も高くなっている。(図3-21、図3-22)

図3-20 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無

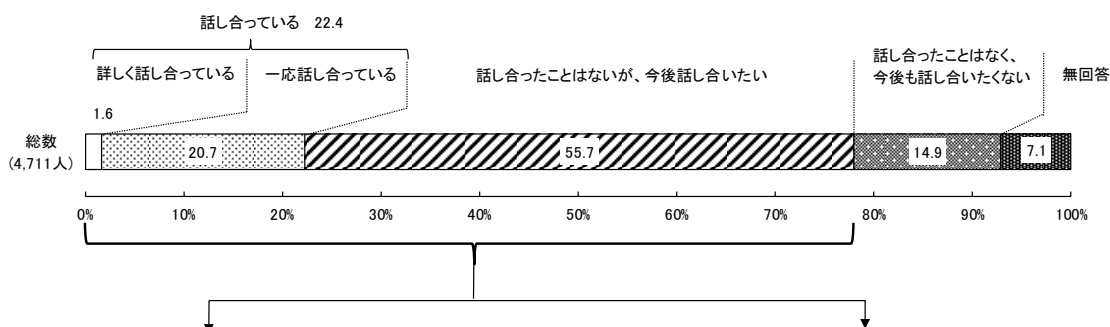


図3-21 話し合った相手・話し合いたい相手 [複数回答]

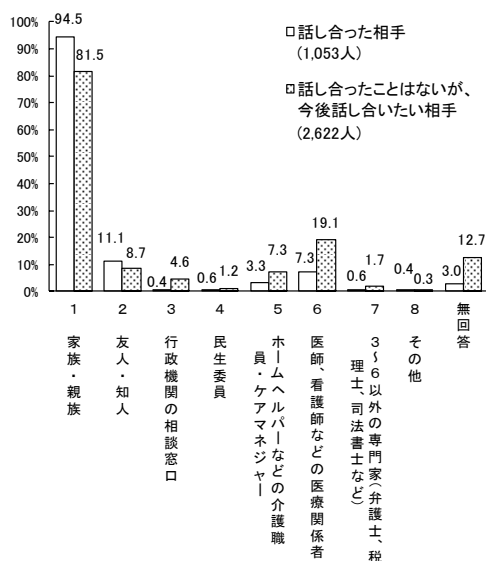
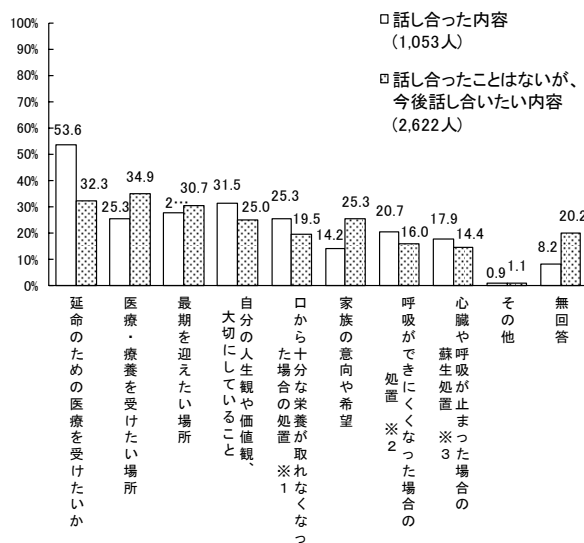


図3-22 話し合った内容・話し合いたい内容 [複数回答]



(注1) ※1の「口から十分な栄養が取れなくなった場合の処置」とは、点滴、経鼻栄養、胃ろうなどを指す。

(注2) ※2の「呼吸ができにくくなった場合の処置」とは、気管に管を入れて人工呼吸器につなげるなどを指す。

(注3) ※3の「心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置」とは、心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸などを指す。

(1) 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

終末期に受けたい医療について話し合ったことがあるかを性別でみると、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた「話し合っている」の割合は、男性20.3%、女性24.0%となっている。

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるにつれて、「話し合っている」の割合が高くなり、85歳以上では29.3%となっている。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別でみると、ACPを知っている人では、「話し合っている」の割合が41.2%となっている。（表3-14）

表3-14 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	詳しく話し合っている	一応話し合っている	今後話し合いたくないが、	今後話し合いたくない、	無回答
総数		100.0 (4,711)	1.6	20.7	55.7	14.9	7.1
性別	男	100.0 (2,138)	1.5	18.8	54.3	19.6	5.7
	女	100.0 (2,573)	1.7	22.3	56.7	11.0	8.2
年齢階級別	65～69歳	100.0 (981)	0.5	16.9	60.6	18.3	3.7
	70～74歳	100.0 (1,304)	1.0	20.0	58.7	16.6	3.6
	75～79歳	100.0 (1,036)	1.8	20.1	57.1	14.8	6.2
	80～84歳	100.0 (744)	2.8	23.0	53.2	10.2	10.8
	85歳以上	100.0 (646)	2.9	26.3	42.4	11.9	16.4
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	1.7	20.1	55.7	15.8	6.7
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	1.5	15.8	53.0	21.3	8.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	1.9	23.0	58.0	11.5	5.6
	その他	100.0 (157)	0.6	21.7	51.6	19.7	6.4
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	1.2	21.2	57.3	13.2	7.1
認知度別の	知っている	100.0 (243)	5.8	35.4	52.3	6.2	0.4
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (774)	2.5	25.6	62.8	7.4	1.8
	知らない	100.0 (3,323)	1.0	17.9	59.9	18.8	2.3

(2) 終末期に受けてほしい医療について「話し合っている」人の状況

ア 終末期に受けてほしい医療について話し合った相手〔複数回答〕

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けてほしい医療についての話し合いの有無別

男女とも「家族・親族」の割合が最も高く、男性93.6%、女性95.1%

終末期に受けてほしい医療について話し合った相手を性別で見ると、男性では「家族・親族」の割合が93.6%で最も高く、次いで「医師、看護師などの医療関係者」が7.6%となっている。女性では「家族・親族」の割合が95.1%で最も高く、次いで「友人・知人」が14.4%となっている。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「ホームヘルパーなどの介護職員、ケアマネージャー」、「医師、看護師などの医療関係者」の割合が高くなり、85歳以上ではそれぞれ7.4%、13.2%となっている。(表3-15)

表3-15 終末期に受けてほしい医療について話し合った相手〔複数回答〕

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けてほしい医療についての話し合いの有無別

		総数	1 家族・親族	2 友人・知人	3 行政機関の相談窓口	4 民生委員	5 ホームヘルパーなどの介護職員、	6 医師、看護師などの医療関係者	7 (3、6以外の専門 弁護士、税理士、司法書士など)	8 その他	無回答
総数		100.0 (1,053)	94.5	11.1	0.4	0.6	3.3	7.3	0.6	0.4	3.0
性別	男	100.0 (435)	<u>93.6</u>	6.4	0.5	0.9	2.5	<u>7.6</u>	0.9	-	3.0
	女	100.0 (618)	<u>95.1</u>	<u>14.4</u>	0.3	0.3	3.9	7.1	0.3	0.6	3.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (171)	95.9	11.1	-	-	-	<u>1.2</u>	0.6	-	2.9
	70～74歳	100.0 (274)	96.0	14.2	1.1	0.7	<u>1.5</u>	<u>5.5</u>	0.7	0.4	1.8
	75～79歳	100.0 (227)	93.8	11.0	-	1.3	<u>3.5</u>	<u>7.0</u>	0.4	0.4	2.6
	80～84歳	100.0 (192)	97.9	13.5	-	-	<u>4.7</u>	<u>9.9</u>	-	0.5	0.5
	85歳以上	100.0 (189)	88.4	4.2	0.5	0.5	<u>7.4</u>	<u>13.2</u>	1.1	0.5	7.9
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (585)	94.2	12.6	0.3	1.0	2.7	7.0	0.3	0.3	2.9
	ひとり暮らし	100.0 (181)	86.2	21.5	1.1	2.2	5.5	9.4	0.6	0.6	5.0
	配偶者と二人暮らし	100.0 (369)	98.4	8.4	-	0.5	1.4	5.4	0.3	0.3	1.4
	その他	100.0 (35)	91.4	11.4	-	-	2.9	11.4	-	-	8.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (375)	95.7	9.3	0.3	-	3.5	7.5	0.5	0.5	3.2
最終的に話し合っていない	詳しく話し合っている	100.0 (77)	92.2	13.0	1.3	2.6	6.5	18.2	3.9	2.6	3.9
	一応話し合っている	100.0 (976)	94.7	11.0	0.3	0.4	3.1	6.5	0.3	0.2	3.0

イ 終末期に受けたい医療について話し合った内容〔複数回答〕

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について詳しく話し合っている人では「自分の人生観や価値観、大切にしていること」の割合が最も高く 5 割超

終末期に受けたい医療について話し合った内容を性別で見ると、男性では「延命のための医療を受けたいか」の割合が 53.1%で最も高く、次いで「最期を迎えたい場所」が 28.5%となっている。女性では「延命のための医療を受けたいか」の割合が 53.9%で最も高く、次いで「自分の人生観や価値観、大切にしていること」が 34.3%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別で見ると、詳しく話し合っている人では「自分の人生観や価値観、大切にしていること」の割合が 55.8%で最も高くなっている。(表 3-16)

表 3-16 終末期に受けたい医療について話し合った内容〔複数回答〕

－性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	自分の人生観や価値観、大切にしていること	医療・療養を受けたい場所	最期を迎えたい場所	延命のための医療を受けたいか	口から十分な栄養が取れなくなつた場合の処置（点滴、経鼻栄養、胃ろうなど）	呼吸器（機械）に頼る必要がなくなるまで人工呼吸器をいれて人工呼吸ができればいい	心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置（心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸器など）	家族の意向や希望	その他	無回答
総数		100.0 (1,053)	31.5	25.3	27.8	53.6	25.3	20.7	17.9	14.2	0.9	8.2
性別	男	100.0 (435)	27.6	25.3	28.5	53.1	23.0	17.2	15.6	16.1	0.9	6.0
	女	100.0 (618)	34.3	25.2	27.3	53.9	26.9	23.1	19.4	12.9	0.8	9.7
年齢階級別	65～69歳	100.0 (171)	36.8	17.5	22.2	70.8	28.1	24.6	18.7	13.5	-	2.9
	70～74歳	100.0 (274)	29.6	22.6	21.2	60.2	26.6	20.8	18.6	14.2	1.8	5.8
	75～79歳	100.0 (227)	32.6	26.0	32.2	51.5	27.3	24.2	20.7	17.2	0.4	10.1
	80～84歳	100.0 (192)	34.9	31.3	32.3	39.1	22.9	16.7	14.6	16.7	1.0	7.3
	85歳以上	100.0 (189)	24.9	29.1	32.8	45.5	20.6	16.9	15.9	9.0	0.5	14.8
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (585)	33.8	26.7	29.2	55.9	25.0	20.3	17.4	16.1	1.0	6.7
	ひとり暮らし	100.0 (181)	35.9	26.0	31.5	45.3	18.2	15.5	13.8	10.5	1.7	12.2
	配偶者と二人暮らし	100.0 (369)	35.0	26.8	28.2	61.5	27.9	23.3	19.5	18.2	0.8	3.8
	その他	100.0 (35)	11.4	28.6	28.6	51.4	28.6	14.3	14.3	22.9	-	8.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (375)	29.3	24.5	28.3	53.3	27.7	22.7	19.7	12.0	0.8	8.3
終末期の医療について話し合った内容	詳しく話し合っている	100.0 (77)	55.8	37.7	42.9	44.2	32.5	31.2	29.9	18.2	1.3	9.1
	一応話し合っている	100.0 (976)	29.6	24.3	26.6	54.3	24.7	19.9	16.9	13.9	0.8	8.1

(3) 終末期に受けたい医療について「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」人の状況

ア 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手〔複数回答〕

ー性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

ACPを知っている人では「医師、看護師などの医療関係者」の割合が26.8%

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手を性別で見ると、男女とも「家族・親族」の割合が最も高く（男性 82.3%、女性 80.8%）、次いで「医師、看護師などの医療関係者」がとなっている（男性 21.8%、女性 16.9%）。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別で見ると、「医師、看護師などの医療関係者」の割合は、ACPを知っている人では26.8%、知らない人では18.3%で、知っている人の方が、8.5ポイント高くなっている。（表3-17）

表3-17 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手〔複数回答〕

ー性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	1 家族・親族	2 友人・知人	3 行政機関の相談窓口	4 民生委員	5 ホームヘルパーなどの介護職員、ケアマネージャー	6 医師、看護師などの医療関係者	7 (弁護士、税理士、司法書士など) 356以外の専門家	8 その他	無回答
総数		100.0 (2,622)	81.5	8.7	4.6	1.2	7.3	19.1	1.7	0.3	12.7
性別	男	100.0 (1,162)	<u>82.3</u>	7.4	5.3	1.5	6.8	<u>21.8</u>	2.4	0.5	10.7
	女	100.0 (1,460)	<u>80.8</u>	9.7	4.0	1.0	7.7	<u>16.9</u>	1.2	0.1	14.2
年齢階級別	65～69歳	100.0 (594)	85.7	7.4	5.1	0.8	7.6	18.9	1.5	0.2	9.8
	70～74歳	100.0 (766)	81.6	12.4	4.4	1.0	6.4	19.5	1.6	0.7	12.1
	75～79歳	100.0 (592)	78.2	7.4	5.4	2.4	6.9	18.8	1.9	-	14.9
	80～84歳	100.0 (396)	78.3	7.3	3.3	0.8	8.6	17.7	1.8	0.3	16.4
	85歳以上	100.0 (274)	83.6	5.8	4.4	0.7	8.0	21.2	2.2	0.4	10.2
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,494)	79.3	10.0	5.7	1.5	8.6	18.9	2.1	0.3	12.9
	ひとり暮らし	100.0 (555)	70.8	12.6	7.6	2.3	8.6	21.1	3.1	0.5	15.0
	配偶者と二人暮らし	100.0 (858)	85.0	7.9	4.4	1.0	8.7	17.4	1.4	0.2	11.5
	その他	100.0 (81)	76.5	13.6	6.2	1.2	7.4	21.0	2.5	-	13.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (961)	86.0	6.9	3.2	0.8	5.6	19.7	1.2	0.2	11.4
認知度別の	知っている	100.0 (127)	84.3	11.0	5.5	1.6	10.2	<u>26.8</u>	3.9	-	8.7
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (486)	79.2	9.7	4.7	0.8	8.8	20.6	1.2	-	13.0
	知らない	100.0 (1,991)	81.9	8.2	4.5	1.3	6.7	<u>18.3</u>	1.7	0.4	12.8

イ 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容〔複数回答〕

ー性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

男性では「医療・療養を受けたい場所」の割合が最も高く、女性では「延命のための医療を受けたいか」が最も高い

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容を性別でみると、男性では「医療・療養を受けたい場所」の割合が37.7%で最も高く、次いで「最期を迎えたい場所」が32.9%となっている。女性では「延命のための医療を受けたいか」の割合が33.6%で最も高く、次いで「医療・療養を受けたい場所」が32.7%となっている。

年齢階級別でみると、65～69歳では、「延命のための医療を受けたいか」の割合が、44.9%で、総数の割合（32.3%）と比べ、12.6ポイント高くなっている。（表3-18）

表3-18 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容〔複数回答〕

ー性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	自分 の人生 観や 価値 観、 大切 に し て い る こ と	医 療 ・ 療 養 を 受 け た い 場 所	最 期 を 迎 え た い 場 所	延 命 の た め の 医 療 を 受 け た い か	栄 養 ・ 胃 ろ う な ど （ な つ た 場 合 の 処 置 が 取 れ な く 、 経 鼻 栄 養 な ど ）	口 か ら 十 分 な 栄 養 が 取 れ な く 、 鼻 の か ら の 栄 養 を 取 る な ど ）	吸 入 器 に つ な げ る な ど ）	呼 吸 が で き な く な っ た 場 合 の 呼 吸 器 を 入 れ て 人 工 呼 吸 を し な う な ど ）	生 命 を 止 ま さ な い で 心 臓 マ ッ シ ン グ な ど ）	心 臓 や 呼 吸 器 が 止 ま ら な い で 生 命 を 延 ば す な ど ）	家 族 の 意 向 や 希 望	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (2,622)	25.0	34.9	30.7	32.3	19.5	16.0	14.4	25.3	1.1	20.2			
性別	男	100.0 (1,162)	25.9	37.7	32.9	30.6	17.1	14.9	12.7	27.1	0.9	18.0			
	女	100.0 (1,460)	24.2	32.7	28.9	33.6	21.4	16.8	15.7	23.9	1.2	22.0			
年齢階級別	65～69歳	100.0 (594)	27.3	36.5	35.4	44.9	23.7	21.7	19.5	27.3	0.5	15.0			
	70～74歳	100.0 (766)	27.0	35.9	30.7	35.5	20.4	16.4	14.8	25.2	1.4	18.8			
	75～79歳	100.0 (592)	21.5	35.3	28.4	28.4	17.9	14.9	13.9	25.8	0.8	22.0			
	80～84歳	100.0 (396)	22.5	32.6	26.0	20.2	15.7	11.4	10.4	21.5	2.0	26.5			
	85歳以上	100.0 (274)	25.5	31.4	32.1	21.9	17.2	11.3	9.1	25.9	0.7	22.6			
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,494)	25.0	35.9	31.1	31.9	19.2	16.4	14.8	22.1	1.3	20.2			
	ひとり暮らし	100.0 (555)	24.5	33.0	30.6	27.6	18.6	14.8	14.4	16.4	2.0	22.9			
	配偶者と二人暮らし	100.0 (858)	25.2	37.2	31.6	34.4	20.0	17.9	15.5	26.1	0.9	18.3			
	その他	100.0 (81)	25.9	42.0	28.4	35.8	14.8	11.1	9.9	18.5	1.2	22.2			
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (961)	25.7	34.9	31.4	34.9	20.6	16.0	14.0	30.7	0.4	18.5			
認知度別の	知っている	100.0 (127)	36.2	40.9	40.2	44.9	30.7	29.1	22.8	28.3	-	16.5			
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (486)	28.6	35.4	33.5	28.4	20.2	15.8	13.4	26.5	0.4	21.6			
	知らない	100.0 (1,991)	23.5	34.5	29.3	32.4	18.6	15.1	14.0	24.8	1.4	20.0			

## 12 人生の最期を迎えたい場所

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」の割合が最も高く、34.4%

人生の最期をどこで迎えたいか聞いたところ、「自宅」の割合が34.4%で最も高く、次いで「特に希望はない」が15.4%となっている。

年齢階級別でみると、年齢階級が下がるにつれて、「ホスピス(医療機関の緩和ケア病棟)」割合が高くなり、65歳～69歳では14.8%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別でみると、詳しく話し合っている人では「自宅」の割合が45.5%で最も高く、次いで「ホスピス(医療機関の緩和ケア病棟)」が19.5%となっている。(表3-19)

表3-19 人生の最期を迎えたい場所

### 一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	自宅	子供など親族の家	ホスピス (医療機関の緩和ケア病棟)	ホスピス以外の医療機関	高齢者向け住宅 (有料老人ホームなど)	介護保険で入所できる施設 (特別養護老人ホーム等)	その他	特に希望はない	わからない	無回答
総数		100.0 (4,711)	34.4	0.3	11.7	7.0	3.1	5.9	0.5	15.4	13.4	8.4
性別	男	100.0 (2,138)	39.0	0.1	8.5	6.8	3.4	5.8	0.3	18.9	11.4	5.8
	女	100.0 (2,573)	30.6	0.4	14.3	7.2	2.8	5.9	0.7	12.5	15.0	10.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (981)	29.6	0.3	14.8	7.0	3.1	4.7	0.6	19.9	16.6	3.5
	70～74歳	100.0 (1,304)	35.6	-	14.0	6.1	2.8	5.5	0.5	16.8	15.3	3.4
	75～79歳	100.0 (1,036)	35.7	0.4	12.3	7.2	2.5	6.9	0.5	14.7	12.9	6.9
	80～84歳	100.0 (744)	37.1	0.3	8.3	8.9	3.2	7.9	0.7	12.5	9.8	11.3
	85歳以上	100.0 (646)	34.2	0.8	5.3	6.5	4.3	4.3	0.3	10.2	9.3	24.8
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	31.9	0.3	12.9	6.9	3.9	6.4	0.6	15.1	14.6	7.3
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	23.3	0.5	13.1	7.1	5.2	8.0	1.0	16.5	15.9	9.6
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	38.3	0.3	13.2	6.8	3.1	5.5	0.3	14.1	13.3	5.2
	その他	100.0 (157)	29.3	-	8.9	7.6	3.8	5.1	0.6	14.6	17.8	12.1
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	38.0	0.2	10.6	7.2	1.5	4.6	0.4	16.5	11.9	9.1
話し合いの有無別	終末期に受けたい医療について詳しく話し合っている	100.0 (77)	45.5	1.3	19.5	9.1	3.9	3.9	-	3.9	3.9	9.1
	一応話し合っている	100.0 (976)	36.8	0.1	15.6	8.5	3.7	5.2	0.6	12.2	7.9	9.4
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (2,622)	37.1	0.4	12.8	7.7	3.4	7.2	0.5	14.9	14.4	1.5
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (703)	31.4	0.1	6.0	5.1	2.0	3.8	0.6	28.0	21.5	1.4

### 13 終末期に受けたい医療について書き留めているか〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期に受けたい医療について、ノートなどに「書き留めている」割合が8.6%、「書き留めていない」が84.6%

自身の人生の最終段階で受けたい医療について、ノートなどに書き留めているか聞いたところ、「書き留めている」割合が8.6%、「書き留めていない」が84.6%となっている。また、書き留めた人は、「自分」の割合が5.5%、次いで「家族、親族」が3.5%となっている。

世帯類型別でみると、ひとりぐらしでは、「書き留めている」割合が10.3%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別でみると、詳しく話し合っている人では「書き留めている」割合は49.4%で、書き留めた人は「自分」の割合が36.4%で最も高く、次いで、「家族・親族」が20.8%となっている。(表3-20)

表3-20 終末期に受けたい医療について書き留めているか〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	書き留めている	自分	家族・親族	ホームヘルパー・ケアマネジャー	医師、看護師などの医療関係者	その他	書き留めていない	無回答
総数		100.0 (4,711)	8.6	5.5	3.5	0.3	0.6	0.3	84.6	6.8
性別	男	100.0 (2,138)	6.5	4.3	3.0	0.4	0.7	0.0	87.1	6.3
	女	100.0 (2,573)	10.2	6.6	4.0	0.3	0.5	0.5	82.5	7.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (981)	3.8	2.9	1.1	-	-	-	90.3	5.9
	70～74歳	100.0 (1,304)	6.6	4.3	2.6	0.2	0.3	0.5	86.8	6.6
	75～79歳	100.0 (1,036)	11.2	7.3	4.9	0.1	0.7	0.3	81.2	7.6
	80～84歳	100.0 (744)	10.8	7.4	4.2	0.8	0.8	0.4	82.0	7.3
	85歳以上	100.0 (646)	13.0	7.0	6.2	0.8	1.4	0.3	80.0	7.0
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	8.3	5.5	3.1	0.4	0.6	0.4	85.2	6.5
	ひとりぐらし	100.0 (1,047)	10.3	6.9	3.6	0.6	0.9	0.7	82.7	7.0
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	7.4	4.8	2.8	0.3	0.4	0.3	86.2	6.4
	その他	100.0 (157)	3.8	2.5	1.9	-	-	-	91.7	4.5
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	7.7	5.2	3.6	0.1	0.5	0.1	86.0	6.3
終末期の医療についての話し合いの有無別	詳しく話し合っている	100.0 (77)	49.4	36.4	20.8	-	1.3	6.5	48.1	2.6
	一応話し合っている	100.0 (976)	18.4	12.2	7.9	0.7	0.8	0.5	77.6	4.0
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (2,622)	6.2	3.7	2.6	0.2	0.6	0.2	86.8	7.0
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (703)	2.1	1.6	0.6	-	-	-	95.9	2.0



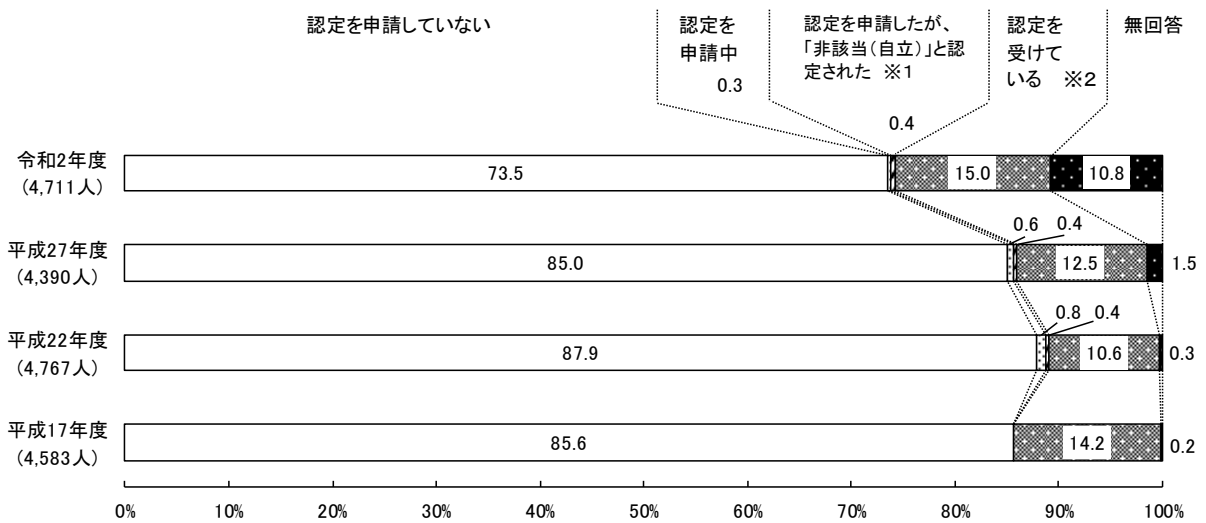
## 第4章 介護保険制度

### 1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

「認定を受けている」人の割合は 15.0%

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているか聞いたところ、「認定を申請していない」人の割合が 73.5%、「認定を受けている」人が 15.0%となっている。（図 4-1）

図 4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無—過去調査との比較



(注1) 令和2年度調査は、調査方法を郵送による自計式調査に変更しているため、平成27年度以前の調査結果と比較する場合には、無回答を含めた各項目の割合の変化に注意が必要である。

(注2) ※1は、平成17年度調査では選択肢を設けていなかった。

(注3) ※2は、平成17年度調査では「認定を申請中」を含む。

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

寝たきり高齢者が、「認定を受けている」割合は93.5%、「申請していない」は2.2%

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているかを性別で見ると、「認定を受けている」割合は、男性11.7%、女性17.7%で、女性の方が6.0ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「認定を受けている」割合が高くなっている（4.0%～41.2%、3.6%～58.1%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「認定を受けている」割合が93.5%、「認定を申請していない」が2.2%となっている。（表4-1）

表4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

		総数	い認定を申請して	認定を申請中	と認定され（自立） 認定を申請したが、	認定を受けている	無回答
総数		100.0 (4,711)	73.5	0.3	0.4	15.0	10.8
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	77.7	0.3	0.5	11.7	9.7
	65～74歳	100.0 (1,114)	86.4	0.1	0.4	4.0	9.1
	75～84歳	100.0 (767)	74.6	0.7	0.7	13.0	11.1
	85歳以上	100.0 (257)	49.4	-	0.8	41.2	8.6
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,024)	68.3	0.5	0.7	20.1	10.4
	女	100.0 (2,573)	70.0	0.3	0.3	17.7	11.7
	65～74歳	100.0 (1,171)	84.0	0.2	0.2	3.6	12.0
	75～84歳	100.0 (1,013)	68.2	0.3	0.2	18.5	12.8
	85歳以上	100.0 (389)	32.1	0.8	1.3	58.1	7.7
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,402)	58.2	0.4	0.5	29.5	11.4
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (394)	10.2	1.3	0.5	84.5	3.6
	寝たきり高齢者	100.0 (138)	2.2	0.7	-	93.5	3.6
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (256)	14.5	1.6	0.8	79.7	3.5
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (661)	67.5	-	0.6	20.9	11.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,345)	80.7	0.4	0.4	7.5	10.9
障害のない高齢者	100.0 (2,040)	85.3	0.1	0.3	3.5	10.8	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	74.0	0.3	0.4	15.2	10.1
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	69.2	0.2	0.6	19.7	10.3
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	78.0	0.3	0.3	11.3	10.1
	その他	100.0 (157)	68.2	-	-	22.3	9.6
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (1,677)	74.5	0.2	0.5	14.2	10.6
平成27年度 （参考）	総数	100.0 (4,390)	85.0	0.6	0.4	12.5	1.5
	男	100.0 (1,949)	87.8	0.6	0.5	9.5	1.5
	女	100.0 (2,441)	82.8	0.6	0.4	14.8	1.5

## 2 要支援・要介護度及び介護の状況

### (1) 要支援・要介護度一性、年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

「要支援1」の割合が22.5%、「要支援2」が18.6%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（706人）の要支援・要介護度をみると、「要支援1」の割合が22.5%で最も高く、次いで「要支援2」が18.6%となっている。

性別にみると、男性では「要支援1」、「要支援2」の割合が20.3%で最も高く、女性では「要支援1」の割合が23.7%で最も高くなっている。（表4-2）

表4-2 要支援・要介護度一性、年齢階級別、動作能力類型、世帯類型別

		総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度・ わからない
総数		100.0 (706)	22.5	18.6	14.2	14.0	8.5	7.9	5.8	8.5
性別	男	100.0 (251)	20.3	20.3	13.9	15.5	9.2	4.8	5.2	10.8
	女	100.0 (455)	23.7	17.6	14.3	13.2	8.1	9.7	6.2	7.3
年齢階級別	65～74歳	100.0 (87)	17.2	17.2	12.6	11.5	5.7	5.7	5.7	24.1
	75～84歳	100.0 (287)	26.1	17.8	12.9	13.6	7.3	5.6	6.6	10.1
	85歳以上	100.0 (332)	20.8	19.6	15.7	15.1	10.2	10.5	5.1	3.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (619)	23.3	18.7	14.4	14.4	8.9	8.2	5.8	6.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (333)	11.7	10.5	15.3	19.5	15.0	16.5	10.8	0.6
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (138)	26.8	30.4	19.6	12.3	1.4	-	-	9.4
	軽い障害のある高齢者	100.0 (101)	33.7	28.7	10.9	7.9	2.0	1.0	-	15.8
	障害のない高齢者	100.0 (71)	43.7	18.3	5.6	4.2	1.4	-	-	26.8
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (408)	25.0	20.1	13.0	14.0	5.6	7.8	5.6	8.8
	ひとり暮らし	100.0 (206)	25.2	18.4	16.0	12.6	4.4	7.8	5.8	9.7
	配偶者と二人暮らし	100.0 (167)	26.3	22.2	9.6	16.2	7.2	5.4	6.0	7.2
	その他	100.0 (35)	17.1	20.0	11.4	11.4	5.7	20.0	2.9	11.4
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (238)	18.9	17.2	17.6	13.0	12.2	7.1	6.3	7.6
平成27年度		100.0 (547)	24.3	16.6	17.7	18.1	11.0	6.6	2.9	*

(注) \*は、平成27年度調査では選択肢を設けていなかった。

(2) 介護の状況（対象者が介護を受けている状況）

介護を受けている人のうち、介護者が「子供」である割合が54.2%で最も高い

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（706人）が家族等から「介護を受けている」割合は73.7%、「介護は受けていない」は20.0%となっている。（図4-2）

介護を受けている人（520人）に、介護をしている人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が54.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が35.4%、「配偶者」が30.8%となっている。（図4-3）

さらに、介護をしている人のうち、最も介護をしている時間が長い人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が33.5%で最も高く、次いで「配偶者」が24.4%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が20.4%となっている。（図4-4）

図4-2 介護の有無－平成27年度調査との比較

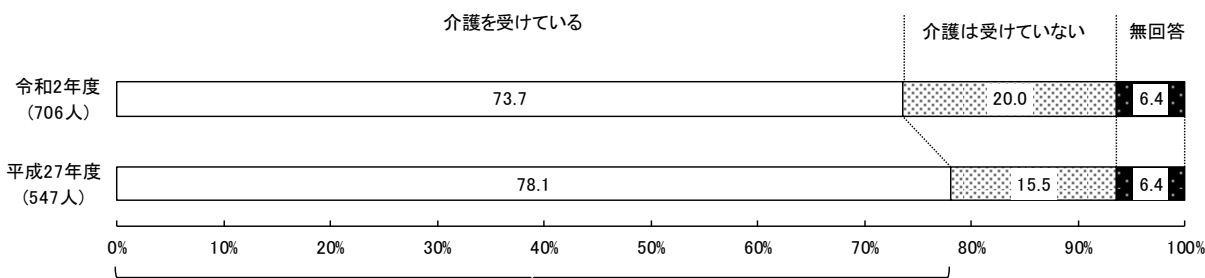
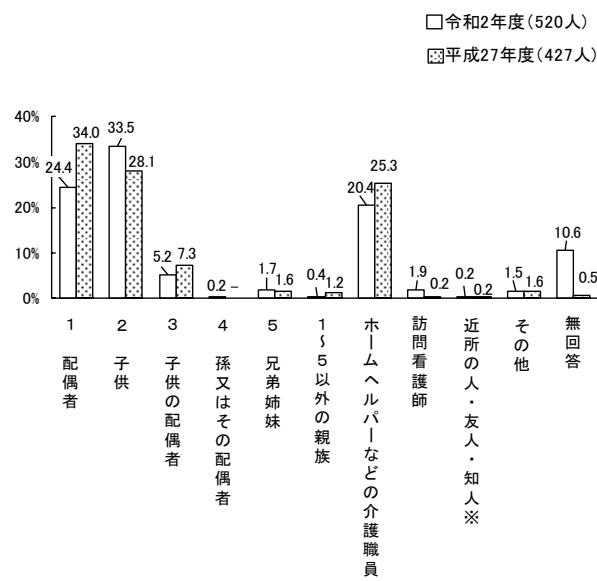
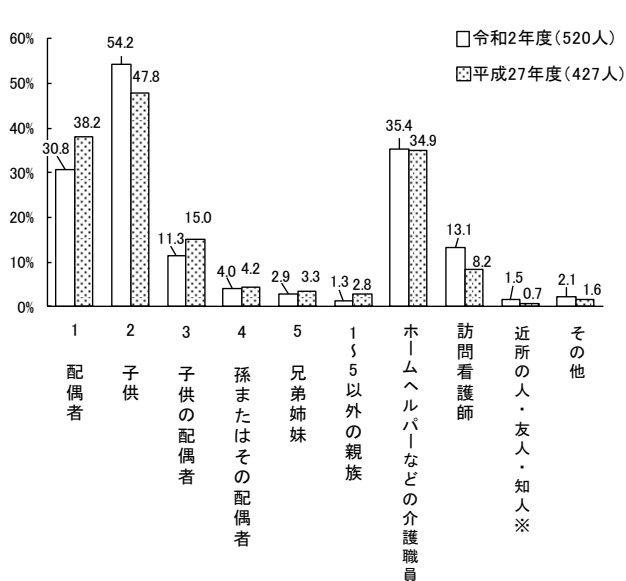


図4-3 対象者本人の介護をしている人〔複数回答〕－平成27年度調査との比較

図4-4 最も介護をしている時間が長い人－平成27年度調査との比較



(注) ※は、平成27年度調査では「近所の人」としていた。

ア 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（520人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を介護している人は、「配偶者」の割合が56.0%で最も高く、次いで「子供」35.2%、「ホームヘルパーなどの介護職員」30.2%となっている。女性を介護している人は、「子供」の割合が64.5%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」38.2%、「配偶者」17.2%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人を介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が68.5%で最も高く、次いで「子供」51.0%となっている。（表4-3）

表4-3 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

	総数	親族	1	2	3	4	5	6	親族以外	7	8	9	10	
			配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	155以外の親族		のホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人・友人・知人	その他	
総数	100.0 (520)	80.2	30.8	54.2	11.3	4.0	2.9	1.3	43.5	35.4	13.1	1.5	2.1	
性・年齢階級別	男	100.0 (182)	80.2	<u>56.0</u>	<u>35.2</u>	8.2	1.1	1.6	2.2	40.1	<u>30.2</u>	11.5	1.6	3.3
	65～74歳	100.0 (25)	68.0	60.0	8.0	-	-	8.0	8.0	44.0	40.0	4.0	4.0	-
	75～84歳	100.0 (74)	83.8	68.9	35.1	1.4	-	1.4	1.4	32.4	23.0	13.5	2.7	2.7
	85歳以上	100.0 (83)	80.7	43.4	43.4	16.9	2.4	-	1.2	35.8	33.7	12.0	-	4.8
	(再掲)75歳以上	100.0 (157)	82.2	55.4	39.5	9.6	1.3	0.6	1.3	30.1	28.7	12.7	1.3	3.8
	女	100.0 (338)	80.2	<u>17.2</u>	<u>64.5</u>	13.0	5.6	3.6	0.9	45.3	<u>38.2</u>	13.9	1.5	1.5
	65～74歳	100.0 (26)	80.8	46.2	42.3	7.7	7.7	-	-	34.6	26.9	11.5	-	3.8
	75～84歳	100.0 (132)	84.8	28.0	61.4	7.6	3.0	7.6	1.5	47.7	38.6	18.9	2.3	0.8
85歳以上	100.0 (180)	76.7	5.0	70.0	17.8	7.2	1.1	0.6	45.0	39.4	10.6	1.1	1.7	
(再掲)75歳以上	100.0 (312)	80.1	14.7	66.3	13.5	5.4	3.8	1.0	46.2	39.1	14.1	1.6	1.3	
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (241)	87.1	66.4	39.0	6.6	1.7	1.7	0.4	34.4	26.1	13.3	1.2	2.1
	男	100.0 (139)	88.5	73.4	32.4	5.8	1.4	-	0.7	33.1	22.3	12.9	1.4	2.2
	女	100.0 (102)	85.3	56.9	48.0	7.8	2.0	3.9	-	36.3	31.4	13.7	1.0	2.0
	配偶者なし	100.0 (279)	74.2	-	67.4	15.4	6.1	3.9	2.2	51.3	43.4	12.9	1.8	2.2
	未婚	100.0 (25)	48.0	-	8.0	-	-	32.0	20.0	60.0	48.0	20.0	4.0	8.0
	死別	100.0 (230)	79.1	-	75.7	18.7	6.5	1.3	-	47.4	41.7	10.9	1.7	1.3
離別	100.0 (24)	54.2	-	50.0	-	8.3	-	4.2	79.2	54.2	25.0	-	4.2	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (290)	74.5	33.1	42.8	8.6	1.4	3.8	1.7	52.4	45.5	14.5	2.1	1.0
	ひとりぐらし	100.0 (143)	57.3	2.8	<u>51.0</u>	11.9	2.8	2.1	2.8	72.0	<u>68.5</u>	14.0	3.5	2.1
	配偶者と二人暮らし	100.0 (122)	90.2	74.6	29.5	4.1	-	0.8	-	36.1	25.4	16.4	0.8	-
	その他	100.0 (25)	96.0	4.0	60.0	12.0	-	28.0	4.0	20.0	12.0	8.0	-	-
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (186)	92.5	25.8	75.3	17.2	9.1	1.6	1.1	28.5	19.9	11.3	-	2.7

## イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（520人）を誰が最も長い時間介護をしているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を最も長い時間介護している人は、「配偶者」の割合が46.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」18.7%、「子供」15.9%となっている。女性を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が42.9%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」21.3%、「配偶者」12.7%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人を最も長い時間介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が50.3%で最も高くなっている。（表4-4）

表4-4 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

	総数	親族	親族						親族以外	その他				無回答	
			1 配偶者	2 子供	3 子供の配偶者	4 孫またはその配偶者	5 兄弟姉妹	6 1～5以外の親族		7 ホームヘルパーなどの介護職員	8 訪問看護師	9 近所の人・友人・知人	10 その他		
総数	100.0 (520)	65.4	24.4	33.5	5.2	0.2	1.7	0.4	24.0	20.4	1.9	0.2	1.5	10.6	
性・年齢階級別	男	100.0 (182)	66.5	<u>46.2</u>	<u>15.9</u>	3.3	-	1.1	-	24.2	<u>18.7</u>	2.7	-	2.7	9.3
	65～74歳	100.0 (25)	56.0	48.0	-	-	-	8.0	-	32.0	32.0	-	-	-	12.0
	75～84歳	100.0 (74)	68.9	54.1	13.5	1.4	-	-	-	18.9	12.2	5.4	-	1.4	12.2
	85歳以上	100.0 (83)	67.5	38.6	22.9	6.0	-	-	-	26.5	20.5	1.2	-	4.8	6.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (157)	68.2	45.9	18.5	3.8	-	-	-	22.9	16.6	3.2	-	3.2	8.9
	女	100.0 (338)	64.8	<u>12.7</u>	<u>42.9</u>	6.2	0.3	2.1	0.6	24.0	<u>21.3</u>	1.5	0.3	0.9	11.2
	65～74歳	100.0 (26)	80.8	38.5	38.5	3.8	-	-	-	19.2	11.5	3.8	-	3.8	-
	75～84歳	100.0 (132)	63.6	21.2	34.8	3.0	-	3.8	0.8	22.0	19.7	1.5	0.8	-	14.4
	85歳以上	100.0 (180)	63.3	2.8	49.4	8.9	0.6	1.1	0.6	26.1	23.9	1.1	-	1.1	10.6
	(再掲)75歳以上	100.0 (312)	63.5	10.6	43.3	6.4	0.3	2.2	0.6	24.4	22.1	1.3	0.3	0.6	12.2
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (241)	71.8	52.7	15.8	2.9	-	0.4	-	15.4	11.2	2.1	-	2.1	12.9
	男	100.0 (139)	73.4	60.4	10.8	2.2	-	-	-	15.8	10.8	2.9	-	2.2	10.8
	女	100.0 (102)	69.6	42.2	22.5	3.9	-	1.0	-	14.7	11.8	1.0	-	2.0	15.7
	配偶者なし	100.0 (279)	59.9	-	48.7	7.2	0.4	2.9	0.7	31.5	28.3	1.8	0.4	1.1	8.6
	未婚	100.0 (25)	44.0	-	8.0	-	-	28.0	8.0	48.0	40.0	4.0	-	4.0	8.0
	死別	100.0 (230)	64.3	-	54.8	8.7	0.4	0.4	-	27.4	25.7	0.9	0.4	0.4	8.3
	離別	100.0 (24)	33.3	-	33.3	-	-	-	-	54.2	41.7	8.3	-	4.2	12.5
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (290)	56.6	26.6	22.8	4.1	-	2.8	0.3	31.7	29.3	1.7	0.3	0.3	11.7
	ひとりぐらし	100.0 (143)	36.4	1.4	28.0	5.6	-	0.7	0.7	53.8	<u>50.3</u>	2.1	0.7	0.7	9.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (122)	72.1	60.7	10.7	0.8	-	-	-	11.5	9.8	1.6	-	-	16.4
	その他	100.0 (25)	96.0	4.0	52.0	12.0	-	28.0	-	4.0	4.0	-	-	-	-
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (186)	81.7	20.4	51.6	8.1	0.5	0.5	0.5	10.2	5.9	2.2	-	2.2	8.1

ウ 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

寝たきり高齢者を介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が52.9%、「子供」が51.2%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（520人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者を介護している人では、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が52.9%で最も高く、次いで「子供」が51.2%となっている。

また、寝たきりに近い高齢者を介護している人では、「子供」の割合が64.6%で最も高くなっている。（表4-5）

表 4-5 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

	総数	親族	1 配偶者	2 子供	3 子供の配偶者	4 孫またはその配偶者	5 兄弟姉妹	6 1～5以外の親族	親族以外	7 ホームヘルパーなどの介護職員	8 訪問看護師	9 近所の人・友人・知人	10 その他	
総数	100.0 (520)	80.2	30.8	54.2	11.3	4.0	2.9	1.3	43.5	35.4	13.1	1.5	2.1	
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (310)	80.6	27.1	59.4	13.5	5.2	1.6	0.3	46.8	40.3	14.8	1.0	1.9
	寝たきり高齢者	100.0 (121)	71.1	24.8	<u>51.2</u>	9.1	2.5	1.7	0.8	59.5	<u>52.9</u>	18.2	0.8	4.1
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (189)	86.8	28.6	<u>64.6</u>	16.4	6.9	1.6	-	38.6	32.3	12.7	1.1	0.5
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (96)	86.5	33.3	57.3	12.5	4.2	4.2	3.1	34.4	28.1	8.3	3.1	2.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (48)	72.9	31.3	41.7	4.2	-	4.2	2.1	45.8	29.2	14.6	-	2.1
	障害のない高齢者	100.0 (28)	75.0	46.4	32.1	3.6	-	3.6	7.1	35.7	21.4	10.7	-	3.6
要支援・要介護度別	要支援1	100.0 (90)	85.6	32.2	61.1	11.1	3.3	4.4	-	34.4	20.0	13.3	4.4	1.1
	要支援2	100.0 (90)	83.3	33.3	51.1	10.0	3.3	3.3	1.1	37.8	30.0	7.8	-	2.2
	要介護1	100.0 (91)	83.5	28.6	54.9	14.3	6.6	4.4	4.4	34.1	29.7	5.5	3.3	1.1
	要介護2	100.0 (93)	77.4	33.3	52.7	9.7	4.3	1.1	1.1	52.7	43.0	17.2	-	2.2
	要介護3	100.0 (54)	85.2	29.6	61.1	18.5	3.7	1.9	1.9	48.1	40.7	16.7	1.9	3.7
	要介護4	100.0 (56)	64.3	14.3	48.2	5.4	3.6	1.8	-	57.1	51.8	17.9	-	5.4
	要介護5	100.0 (37)	81.1	45.9	51.4	13.5	2.7	2.7	-	51.4	48.6	21.6	-	-

## エ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －動作能力類型、要支援・要介護度別

寝たきり高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が32.2%、  
「ホームヘルパーなどの介護職員」が30.6%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（520人）を誰が最も長い時間介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が32.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が30.6%となっている。

寝たきりに近い高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が41.8%で最も高くなっている。（表4-6）

表 4-6 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －動作能力類型、要支援・要介護度別

	総数	親族	親族						親族以外	親族以外				無回答	
			1 配偶者	2 子供	3 子供の配偶者	4 孫またはその配偶者	5 兄弟姉妹	6 1～5以外の親族		7 ホームヘルパーなどの介護職員	8 訪問看護師	9 近所の人・友人・知人	10 その他		
総数	100.0 (520)	65.4	24.4	33.5	5.2	0.2	1.7	0.4	24.0	20.4	1.9	0.2	1.5	10.6	
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (310)	67.4	21.0	38.1	6.5	0.3	1.3	0.3	23.9	21.6	1.3	-	1.0	8.7
	寝たきり高齢者	100.0 (121)	58.7	19.8	<u>32.2</u>	4.1	0.8	0.8	0.8	33.1	<u>30.6</u>	0.8	-	1.7	8.3
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (189)	73.0	21.7	<u>41.8</u>	7.9	-	1.6	-	18.0	15.9	1.6	-	0.5	9.0
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (96)	64.6	27.1	31.3	4.2	-	2.1	-	20.8	16.7	1.0	1.0	2.1	14.6
	軽い障害のある高齢者	100.0 (48)	62.5	25.0	29.2	4.2	-	2.1	2.1	29.2	20.8	6.3	-	2.1	8.3
	障害のない高齢者	100.0 (28)	67.9	42.9	21.4	-	-	3.6	-	28.6	17.9	7.1	-	3.6	3.6
要支援・要介護度別	要支援1	100.0 (90)	68.9	26.7	35.6	4.4	-	2.2	-	17.8	11.1	4.4	1.1	1.1	13.3
	要支援2	100.0 (90)	68.9	30.0	32.2	4.4	-	2.2	-	22.2	17.8	2.2	-	2.2	8.9
	要介護1	100.0 (91)	69.2	22.0	35.2	7.7	-	3.3	1.1	20.9	17.6	2.2	-	1.1	9.9
	要介護2	100.0 (93)	60.2	23.7	30.1	5.4	-	-	1.1	28.0	25.8	1.1	-	1.1	11.8
	要介護3	100.0 (54)	72.2	20.4	40.7	9.3	-	1.9	-	18.5	14.8	-	-	3.7	9.3
	要介護4	100.0 (56)	53.6	12.5	37.5	1.8	-	1.8	-	35.7	33.9	-	-	1.8	10.7
	要介護5	100.0 (37)	64.9	37.8	21.6	2.7	2.7	-	-	27.0	27.0	-	-	-	8.1



### 3 日常生活支援サービス

#### (1) 日常生活支援サービスの現在の利用状況

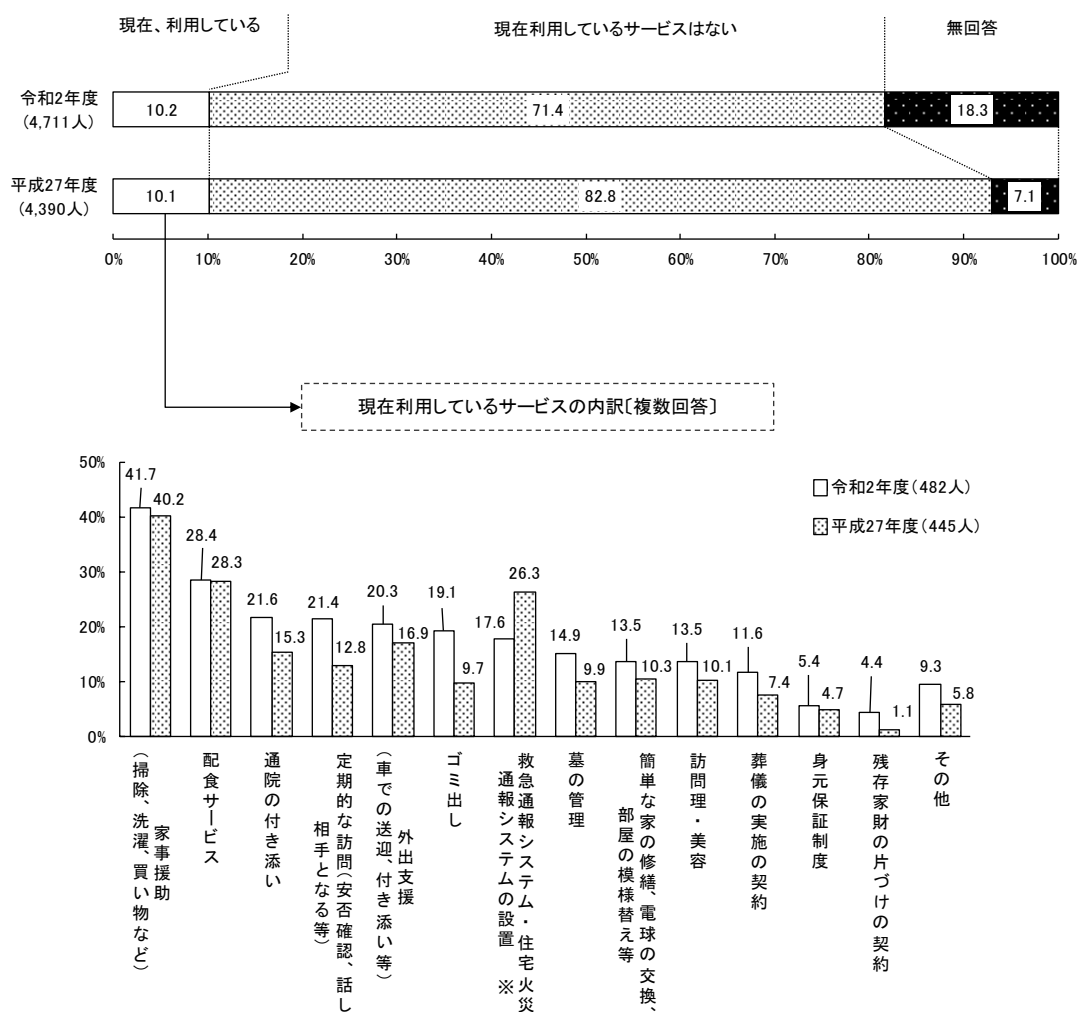
日常生活支援サービスを「現在、利用している」人の割合は10.2%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない）の利用状況について聞いたところ、「現在利用しているサービスはない」の割合が71.4%で、「現在、利用している」人は10.2%となっている。

「現在、利用している」と回答した人(482人)に利用しているサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が41.7%で最も高く、次いで「配食サービス」が28.4%となっている。

平成27年度調査と比べて、「ゴミ出し」の割合は9.4ポイント、「定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）」は8.6ポイント増加している。一方で、「救急通報システム・住宅火災通報システムの設置」の割合は8.7ポイント減少している。（図4-5）

図4-5 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕－平成27年度調査との比較



(注1) 令和2年度調査は、調査方法を郵送による自計式調査に変更しているため、平成27年度以前の調査結果と比較する場合には、無回答を含めた各項目の割合の変化に注意が必要である。

(注2) ※は、平成27年度調査では「緊急通報システム・火災安全システムの設置」としていた。

ア 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕－性・年齢階級、世帯類型別

85歳以上では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が男女とも1割超

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を性・年齢階級別にみると、「身元保証制度」、「残存家財の片づけの契約」を除く全ての日常生活支援サービスで、男女とも年齢階級が上がるにつれて利用割合が上がっている。

特に85歳以上では、「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」の割合が男性13.6%、女性16.7%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人は、「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」が10.0%で、総数の割合(4.3%)に比べて高くなっている。(表4-7)

表4-7 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－性・年齢階級、世帯類型別

	総数	配食サービス	家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援 (車での送迎、付き添い等)	通院の付き添い	定期的な訪問(安否確認、話し相手となる等)	救急通報システム・住宅火災通報システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	現在利用しているサービスは	無回答	
総数	100.0 (4,711)	2.9	4.3	1.4	2.0	2.1	2.2	2.2	1.8	1.4	0.6	1.2	0.4	1.5	1.0	71.4	18.3	
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	2.5	3.0	1.2	1.4	1.4	1.6	1.6	1.4	1.0	0.4	1.1	0.3	1.6	0.6	73.9	17.6
	65～74歳	100.0 (1,114)	0.8	0.6	0.2	0.4	0.3	0.6	0.6	0.1	0.1	0.4	0.1	1.2	0.2	83.2	13.3	
	75～84歳	100.0 (767)	1.8	2.9	1.7	0.9	1.4	1.8	1.8	1.6	1.3	0.8	1.4	0.5	1.4	0.5	69.8	21.5
	85歳以上	100.0 (257)	11.7	13.6	4.3	7.4	5.8	5.1	5.4	5.1	3.9	0.8	3.1	0.4	4.3	2.7	45.5	24.9
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,024)	4.3	5.6	2.3	2.5	2.5	2.6	2.7	2.4	2.0	0.8	1.9	0.5	2.1	1.1	63.7	22.4
	女	100.0 (2,573)	3.3	5.3	1.5	2.4	2.7	2.7	2.6	2.1	1.7	0.7	1.2	0.6	1.4	1.2	69.5	18.9
	65～74歳	100.0 (1,171)	0.5	1.1	0.2	0.6	0.3	0.6	0.9	0.9	0.4	0.2	0.3	0.3	0.5	0.3	83.3	13.9
	75～84歳	100.0 (1,013)	3.8	5.8	1.4	2.5	3.3	2.9	2.7	1.6	1.4	0.4	1.1	0.5	1.5	1.2	64.5	22.2
	85歳以上	100.0 (389)	10.0	16.7	5.9	7.7	8.2	8.7	7.7	7.2	6.4	2.8	4.4	1.8	4.1	4.4	40.9	25.2
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,402)	5.6	8.8	2.6	3.9	4.6	4.5	4.1	3.1	2.8	1.1	2.0	0.9	2.2	2.1	57.9	23.0
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	3.5	5.8	1.9	2.5	2.6	2.8	2.9	2.6	1.6	0.7	1.5	0.5	1.8	0.9	71.5	16.7
	ひとりぐらし	100.0 (1,047)	5.4	10.0	2.8	4.6	3.7	4.0	4.9	4.6	2.4	1.2	2.3	1.0	2.5	1.0	66.1	16.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	2.4	3.0	1.2	1.2	2.0	1.8	1.6	1.5	1.0	0.4	1.0	0.3	1.3	0.9	75.2	16.6
	その他	100.0 (157)	0.6	4.5	2.5	1.3	1.3	3.8	2.5	0.6	1.3	0.6	1.3	-	1.3	0.6	72.0	18.5
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	2.1	1.8	0.4	0.8	1.2	1.1	1.1	0.4	1.0	0.2	0.7	0.2	1.0	1.0	74.4	18.5

イ 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

要介護認定を受けている人では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の利用割合が 22.1%

日常生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「配食サービス」、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」、「定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）」の割合が 2 割を超えている（23.2%、21.0%、20.3%）。

寝たきりに近い高齢者では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が 20.7% で最も高く、次いで「外出支援（車での送迎、付き添い等）」14.1%、「配食サービス」12.5%となっている。

要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別にみると、認定を受けている人では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が 22.1% で最も高くなっている。（表 4-8）

表 4-8 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

	総数	配食サービス	家事援助 （掃除、洗濯、 買い物など）	簡単な家の修繕、 模様替え等	ゴミ出し	外出支援 （車での送迎、 付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問 （安否確認、 話し相手となる等）	住宅火災通報システム・ 救急通報システム・ 救急通報システム・ 設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	現在利用しているサービスは	無回答	
総数	100.0 (4,711)	2.9	4.3	1.4	2.0	2.1	2.2	2.2	1.8	1.4	0.6	1.2	0.4	1.5	1.0	71.4	18.3	
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者 (394)	100.0	16.2	20.8	7.4	11.2	15.2	13.7	14.0	7.6	11.7	1.8	3.0	1.8	3.6	5.8	34.0	21.3
	寝たきり高齢者 (138)	100.0	<u>23.2</u>	<u>21.0</u>	13.0	17.4	17.4	17.4	<u>20.3</u>	10.1	19.6	2.2	4.3	3.6	5.8	8.0	31.9	15.9
	寝たきりに近い 高齢者 (256)	100.0	<u>12.5</u>	<u>20.7</u>	4.3	7.8	<u>14.1</u>	11.7	10.5	6.3	7.4	1.6	2.3	0.8	2.3	4.7	35.2	24.2
	比較的重い障害のある 高齢者 (661)	100.0	3.5	5.7	2.1	2.6	2.3	2.3	2.6	2.7	0.8	0.8	2.1	0.6	2.3	0.9	44.2	40.8
	軽い障害のある高齢者 (1,345)	100.0	1.6	2.3	0.7	0.9	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.4	1.1	0.4	1.3	0.5	77.6	16.4
障害のない高齢者 (2,040)	100.0	1.0	1.4	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	0.8	0.1	0.2	0.4	0.1	1.0	0.4	87.1	8.9	
要介護認定申請の有無別	認定を申請していない (3,462)	100.0	1.1	1.1	0.3	0.6	0.6	0.7	0.3	1.0	0.3	0.3	0.8	0.3	1.2	0.1	81.6	14.0
	認定を申請中 (14)	100.0	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64.3	28.6
	認定を申請したが、「非該当 （自立）」と認定された (20)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70.0	30.0
	認定を受けている (706)	100.0	13.6	<u>22.1</u>	6.9	9.3	10.6	10.8	12.3	7.1	7.6	2.3	3.4	1.3	3.5	5.5	35.1	20.4

## (2) 日常生活支援サービスの今後の利用意向

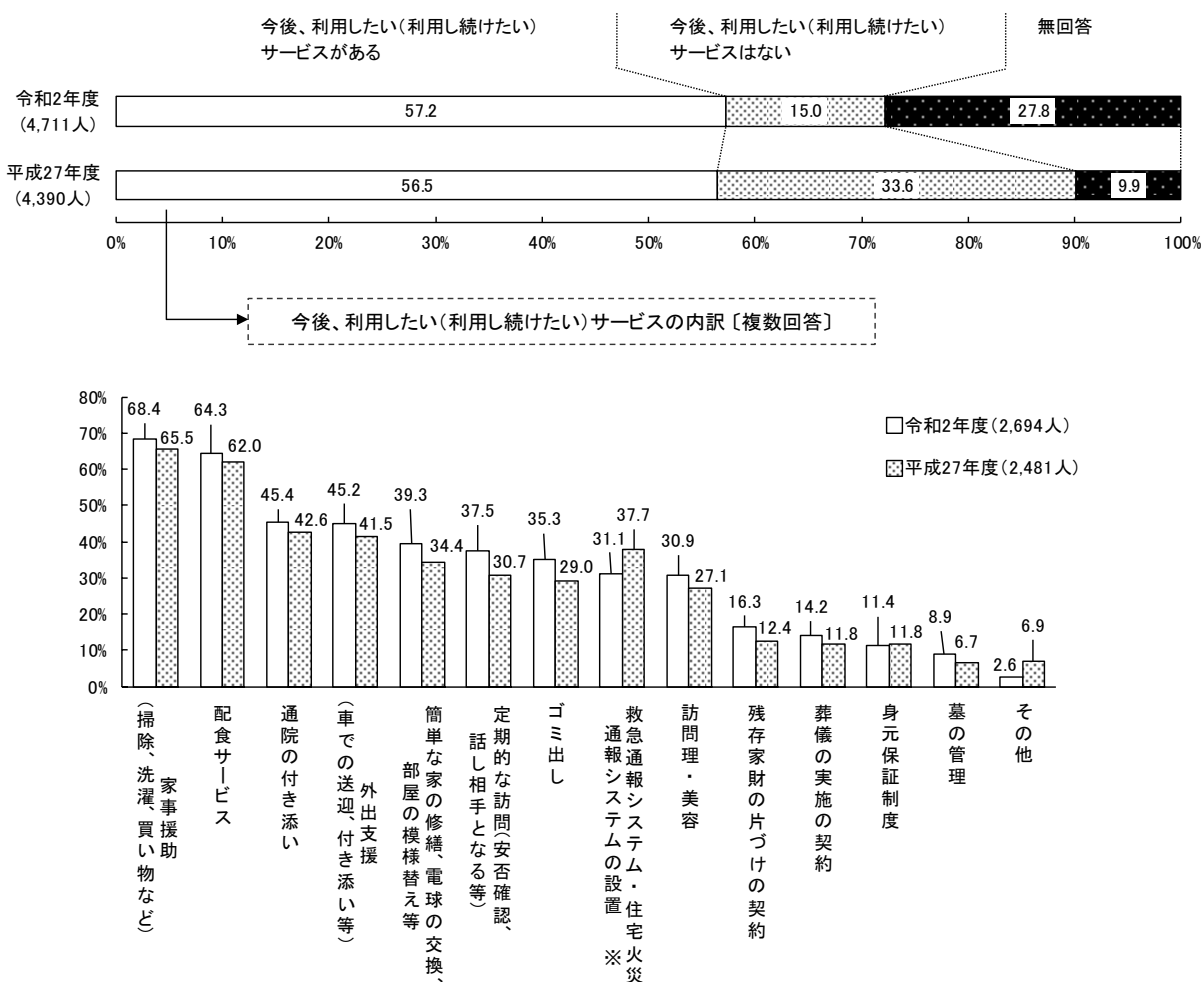
「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」人の割合は 57.2%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を聞いたところ、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」人の割合は 57.2%で、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスはない」が 15.0%となっている。

「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」と回答した人（2,694人）に利用したいサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除・洗濯・買い物など）」の割合が 68.4%で最も高く、次いで「配食サービス」が 64.3%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）」の割合は 6.8 ポイント、「ゴミ出し」は 6.3 ポイント増加している一方、「救急通報システム・住宅火災通報システム設置」は 6.6 ポイント減少している。（図 4-6）

図 4-6 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕－平成 27 年度調査との比較



(注1) 令和2年度調査は、調査方法を郵送による自計式調査に変更しているため、平成27年度以前の調査結果と比較する場合には、無回答を含めた各項目の割合の変化に注意が必要である。

(注2) ※は、平成27年度調査では「緊急通報システム・火災安全システムの設置」としていた。

ア 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕 一性・年齢階級、世帯類型別

65～74歳の女性では、「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」の利用意向が約5割

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を性別にみると、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合は、男性 36.4%、女性 41.4%で女性の方が5.0ポイント高くなっている。

性・年齢階級別でみると、65～74歳女性では、「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」の割合が51.5%となっている。（表4-9）

表4-9 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕

一性・年齢階級、世帯類型別

		総数	配食サービス	家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援 (車での送迎、付き添い等)	通院の付き添い	定期的な訪問(安否確認、話し相手となる等)	住宅火災通報システム・救急通報システム・住居の設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	今後利用したい(利用し続ける)	無回答
総数		100.0 (4,711)	36.8	39.1	22.5	20.2	25.8	25.9	21.4	17.8	17.7	6.5	8.1	9.3	5.1	1.5	15.0	27.8
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	36.9	<u>36.4</u>	20.3	19.9	24.6	23.5	21.9	17.5	15.4	7.1	9.8	10.9	6.6	1.6	19.1	26.2
	65～74歳	100.0 (1,114)	40.0	39.7	21.6	21.5	25.8	24.5	24.7	19.3	15.6	8.5	11.0	12.1	6.9	1.6	21.8	20.7
	75～84歳	100.0 (767)	35.6	34.2	19.8	18.6	24.1	23.3	20.3	16.4	15.9	6.1	9.3	9.6	5.9	1.7	17.6	29.2
	85歳以上	100.0 (257)	26.8	28.8	15.6	16.7	21.0	19.8	14.4	12.8	12.8	3.5	6.6	9.3	7.8	1.6	12.1	40.9
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,024)	33.4	32.8	18.8	18.2	23.3	22.5	18.8	15.5	15.1	5.5	8.6	9.6	6.3	1.7	16.2	32.1
	女	100.0 (2,573)	36.7	<u>41.4</u>	24.3	20.4	26.9	27.9	21.1	18.1	19.6	6.0	6.7	8.0	3.8	1.4	11.5	29.2
	65～74歳	100.0 (1,171)	45.9	<u>51.5</u>	29.6	25.7	32.8	32.7	25.2	22.4	25.3	7.4	7.9	9.6	3.8	1.6	13.0	18.2
	75～84歳	100.0 (1,013)	32.7	37.6	22.1	17.6	24.5	27.2	19.7	15.9	16.8	5.1	6.0	6.9	3.9	1.3	9.8	33.6
	85歳以上	100.0 (389)	19.5	21.1	14.1	11.6	15.2	15.4	12.1	10.8	9.8	4.1	4.6	5.9	3.3	0.8	11.8	50.9
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,402)	29.0	33.0	19.9	15.9	21.9	24.0	17.6	14.5	14.8	4.9	5.6	6.6	3.8	1.1	10.3	38.4
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	40.8	44.5	26.1	24.2	27.9	28.0	24.5	19.9	19.0	7.9	9.6	11.5	5.7	1.4	12.4	26.2
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	36.6	42.5	26.2	24.1	23.6	24.9	23.1	18.6	16.2	9.5	10.6	14.3	5.1	0.8	10.5	29.7
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	44.7	46.7	26.5	25.1	31.4	30.5	26.3	21.6	21.3	7.2	9.5	9.7	6.5	2.0	13.4	22.7
	その他	100.0 (157)	31.8	37.6	22.3	17.2	24.2	24.8	17.2	13.4	15.3	3.8	5.1	10.2	3.2	0.6	14.6	35.0
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	31.8	32.8	17.5	14.7	23.9	24.3	17.2	15.8	17.2	4.5	6.0	6.4	4.3	1.7	19.7	27.7

## 4 介護予防

### (1) 運動の状況

「運動している」人の割合は約5割

現在、介護予防や健康づくりのために運動をしているか聞いたところ、「運動している」人の割合が49.9%、「運動していない」人が39.6%となっている。(図4-7)

運動している人(2,349人)に運動頻度を聞いたところ、「週2回以上」の割合が73.0%で、最も高くなっている。(図4-8)

また、運動の継続期間を聞いたところ、「10年以上」の割合が44.5%で最も高くなっている。(図4-9)

図4-7 運動の有無

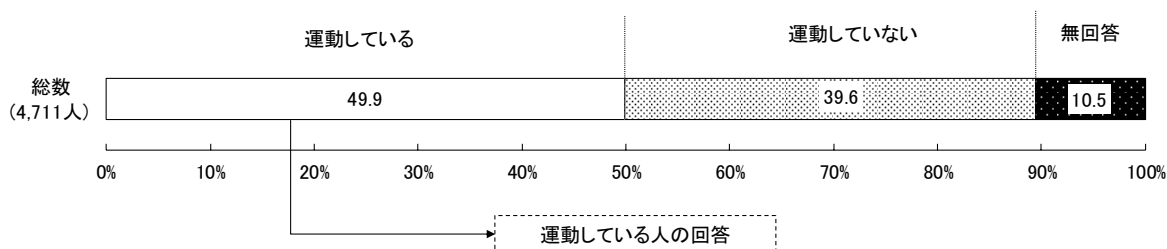


図4-8 運動頻度

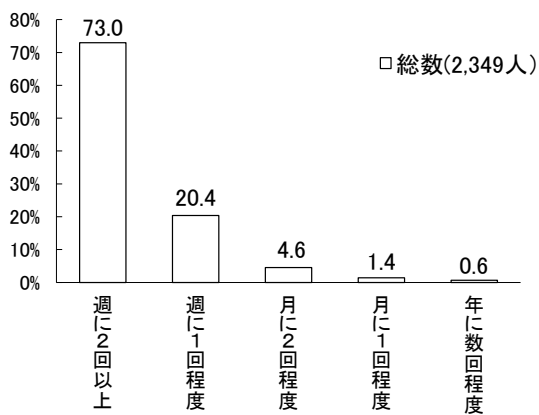
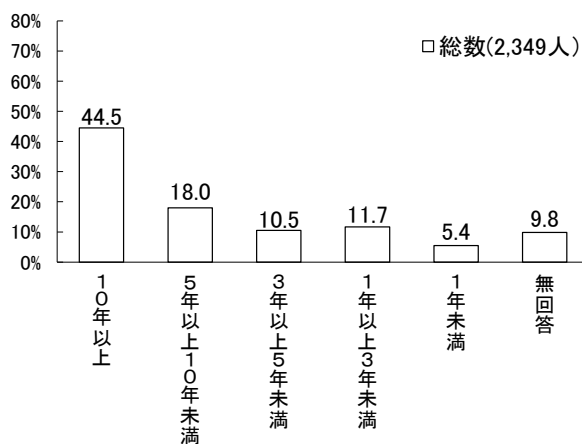


図4-9 継続期間



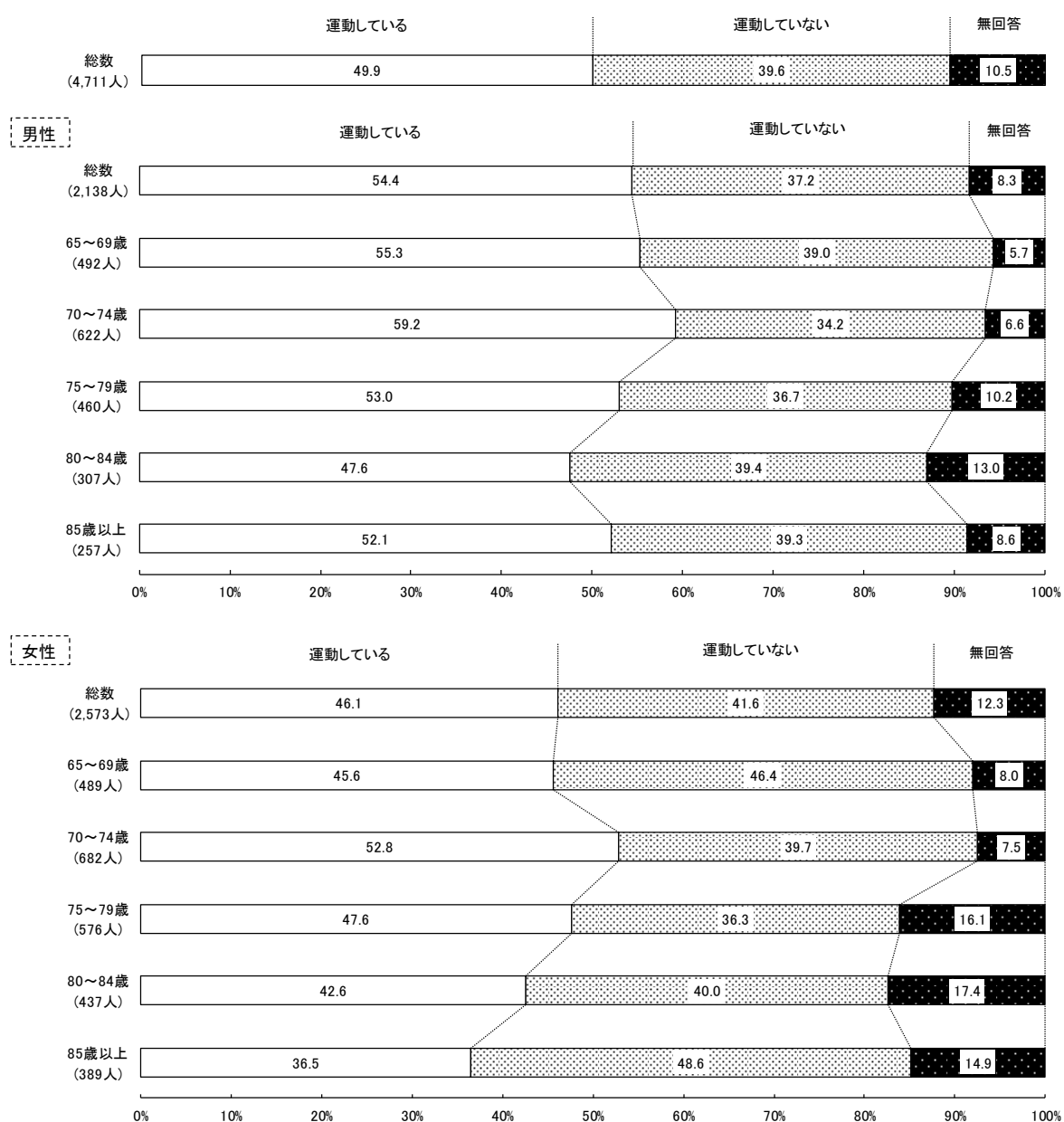
## ア 運動の有無一性・年齢階級別

「運動している」人の割合は、男性 54.4%、女性 46.1%

運動の有無を性別で見ると、「運動している」人の割合は、男性 54.4%、女性 46.1% となっている。

性・年齢階級で見ると、「運動している」人の割合は、男女とも 70～74 歳が最も高く、男性 59.2%、女性 52.8%となっている。(図 4-10)

図 4-10 運動の有無一性・年齢階級別

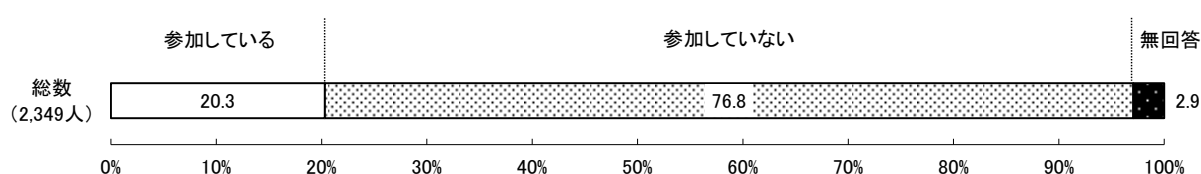


(2) 介護予防活動（区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などへの参加の有無）

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などに「参加している」人の割合は、20.3%

現在、介護予防や健康づくりのために運動している人（2,349人）に区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などに参加しているか聞いたところ、「参加している」割合が20.3%、「参加していない」が76.8%となっている。（図4-11）

図4-11 介護予防活動への参加の有無



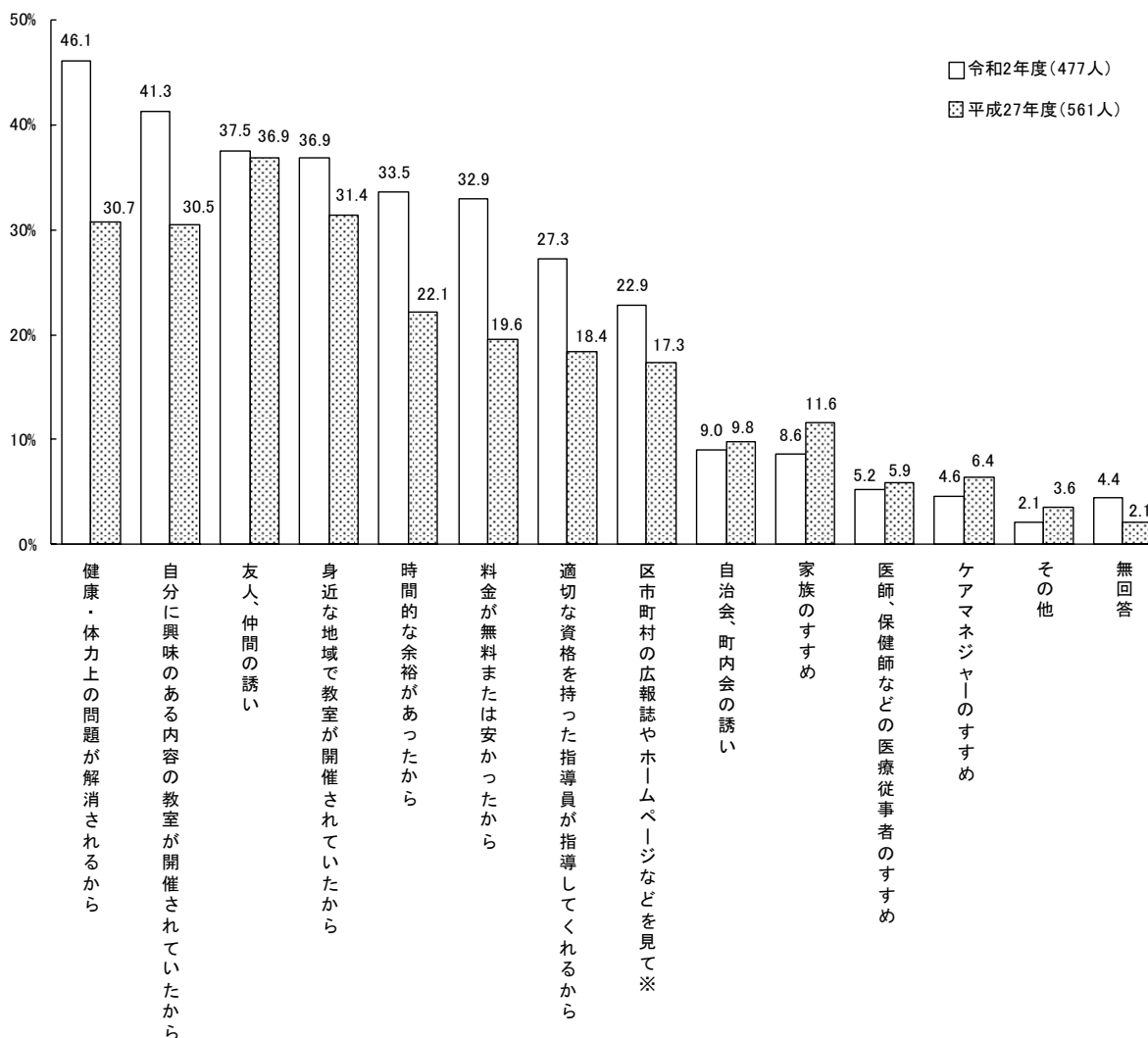


(3) 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動に参加したきっかけ

活動に参加したきっかけは、「健康・体力上の問題が解消されるから」の割合が最も高く46.1%

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っている人(477人)に、そのような教室などに参加したきっかけを聞いたところ、「健康・体力上の問題が解消されるから」の割合が46.1%で最も高く、次いで「自分に興味のある内容の教室が開催されていたから」が41.3%となっている。(図4-12)

図4-12 活動に参加したきっかけ〔複数回答〕—平成27年度調査との比較



(注) ※は、平成27年度調査では「区市町村の広報誌やホームページなどを見て関心を持ったから」としていた。

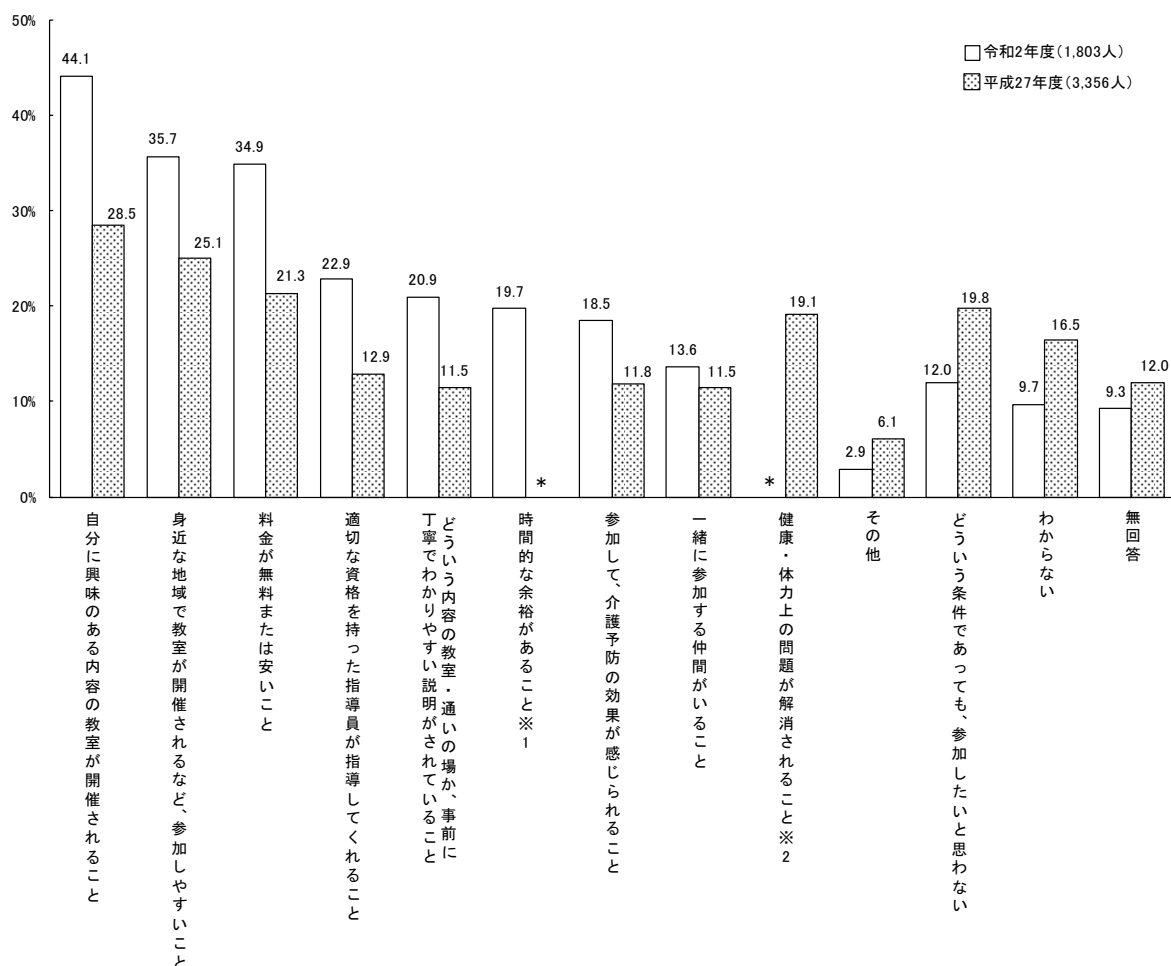
(4) 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動へ参加するために必要となる条件

参加するために必要となる条件は、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」が最も高く44.1%

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っていない人(1,803人)に、そのような教室などに参加するために必要となる条件を聞いたところ、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」が44.1%で最も高く、次いで「身近な地域で教室が開催されるなど、参加しやすいこと」が35.7%、「料金が無料または安いこと」が34.9%となっている。

一方、「どういう条件であっても、参加したいと思わない」の割合は12.0%となっている。(図4-13)

図4-13 参加のために必要となる条件〔複数回答〕－平成27年度調査との比較



(注1) ※1は、平成27年度は選択肢を設けなかった。

(注2) ※2は、令和2年度は選択肢を設けなかった。

### (5) フレイルの認知度

「フレイル」という言葉を「知っている」割合は18.7%

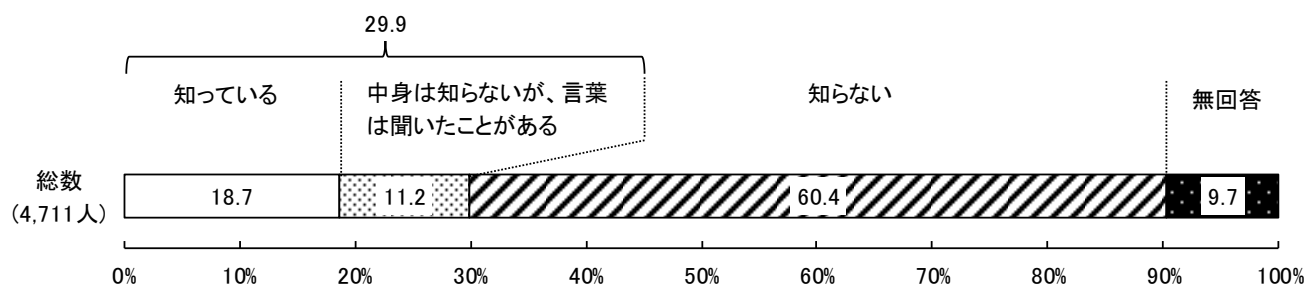
「フレイル」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」割合が18.7%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が11.2%となっている。一方、「知らない」の割合は60.4%となっている。(図4-14)

#### ※ フレイルとは

年齢とともに心身の活力（筋力や認知機能など）が低下して、要介護状態となるリスクが高い状態で、「健康」と「要介護」の間をいう。

多くの高齢者が、フレイルの段階を経て徐々に要介護状態に至るとされている。

図4-14 フレイルの認知度



ア フレイルの認知度 — 性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

フレイルを「知っている」割合は、男性 14.7%、女性 22.0%

フレイルの認知度を性別で見ると、「知っている」割合は、男性 14.7%、女性 22.0%と女性の方が 7.3 ポイント高くなっている。

動作能力類型別で見ると、「知っている」割合は、障害のない高齢者が 23.4%で最も高くなっている。(表 4-10)

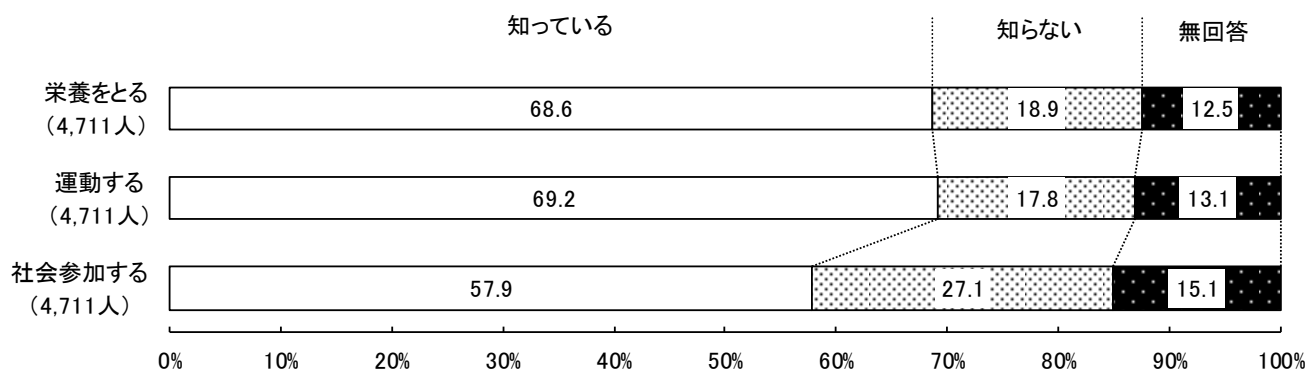
表 4-10 フレイルの認知度 — 性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

		総数	知っている	言葉は聞いたり知らないことがある	知らない	無回答
総数		100.0 (4,711)	18.7	11.2	60.4	9.7
性・年齢階級別	男	100.0 (2,138)	14.7	10.4	67.6	7.2
	65～74歳	100.0 (1,114)	14.5	8.5	73.2	3.9
	75～84歳	100.0 (767)	14.7	12.8	63.8	8.7
	85歳以上	100.0 (257)	15.6	11.7	55.3	17.5
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,024)	14.9	12.5	61.6	10.9
	女	100.0 (2,573)	22.0	11.9	54.3	11.7
	65～74歳	100.0 (1,171)	24.5	11.1	60.1	4.3
	75～84歳	100.0 (1,013)	23.0	13.6	51.6	11.7
	85歳以上	100.0 (389)	12.1	9.8	44.0	34.2
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,402)	20.0	12.6	49.5	18.0
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (394)	6.1	5.6	37.6	50.8
	寝たきり高齢者	100.0 (138)	3.6	3.6	18.1	74.6
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (256)	7.4	6.6	48.0	37.9
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (661)	14.4	11.8	63.4	10.4
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,345)	19.3	12.6	62.9	5.3
	障害のない高齢者	100.0 (2,040)	23.4	11.0	61.8	3.8
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,684)	21.1	11.6	58.7	8.6
	ひとり暮らし	100.0 (1,047)	19.7	11.5	58.2	10.7
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,480)	22.4	12.2	58.9	6.6
	その他	100.0 (157)	19.1	7.0	60.5	13.4
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,677)	15.9	10.5	63.1	10.6

### (6) フレイルの予防方法の認知度

「栄養をとる」、「運動する」及び「社会参加する」ことがフレイルの予防方法であることを知っているか聞いたところ、「知っている」人の割合は、「栄養をとる」が 68.6%、「運動する」が 69.2%、「社会参加する」が 57.9%となっている。(図 4-15)

図 4-15 フレイルの予防方法の認知度



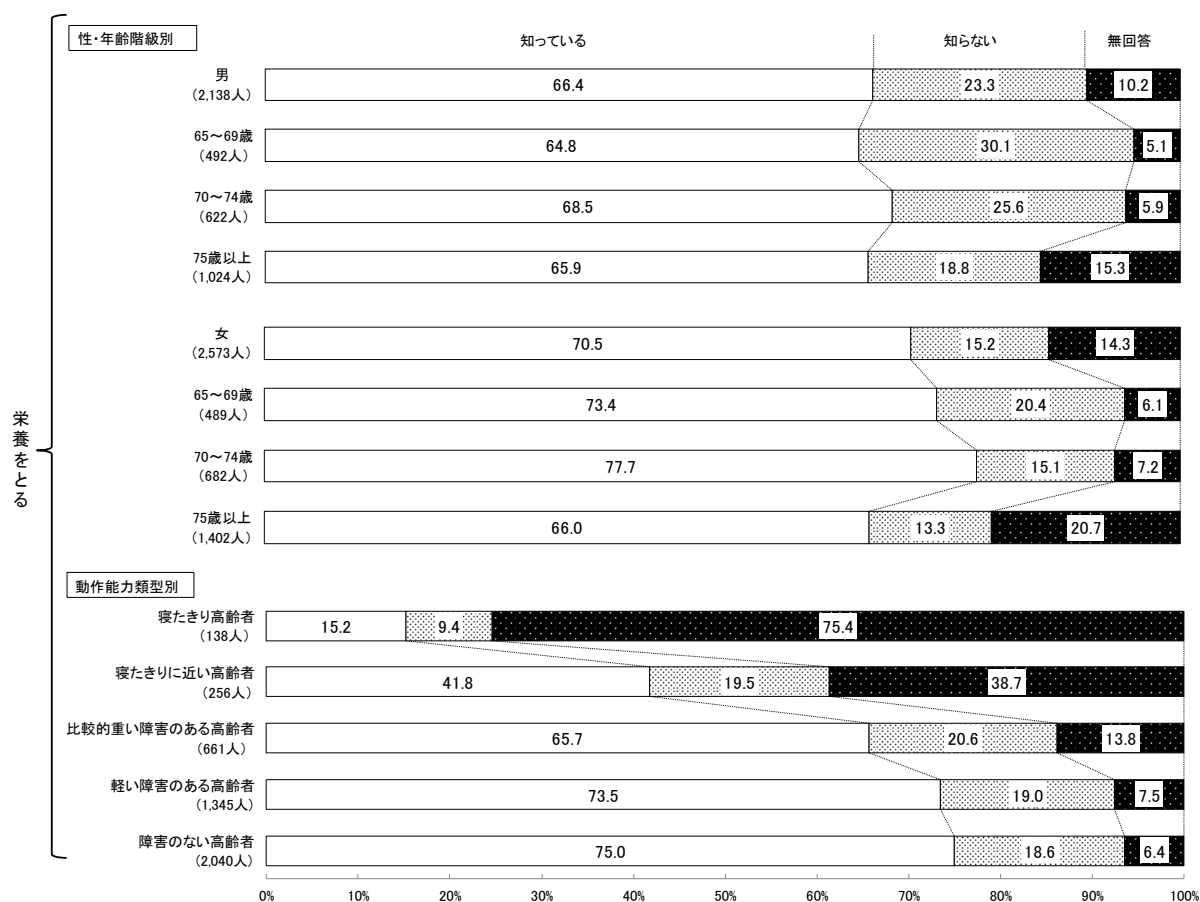
## ア フレイルの予防方法の認知度－性・年齢階級、動作能力類型別

フレイルの予防方法を「知っている」割合は、男女とも、70～74歳が最も高い

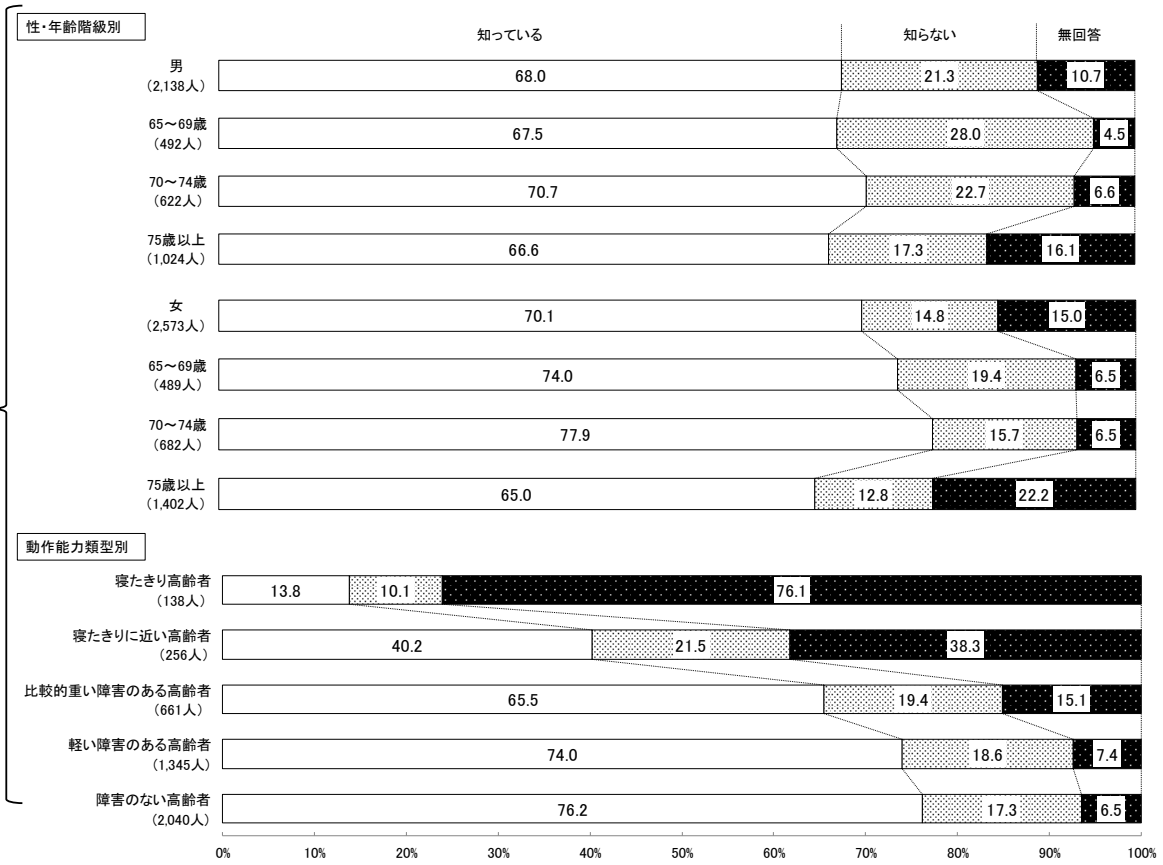
フレイルの予防方法の認知度を性・年齢階級別にみると、どの予防方法においても「知っている」割合は、男女とも70～74歳の割合が他の年齢階級と比べ、最も高くなっている（男性57.7%～70.7%、女性68.8%～77.9%）。

動作能力類型別にみると、障害のない高齢者では、予防方法を「知っている」割合が、栄養をとる75.0%、運動する76.2%、社会参加する66.3%となっている。（図4-16）

図4-16 フレイルの予防方法の認知度－性・年齢階級、動作能力類型別



運動する



社会参加する

